



報告書

平成 27 年 1 月

大和市

目次

1. 開催概要	3
(1) 本事業の目的	3
(2) 当日のプログラム	4
2. 討議会の内容	5
(1) 大和市の子育てに関する取組状況と課題	5
(2) 市民討議会の進め方	5
●話し合いのお約束.....	5
●付箋の書き方のポイント.....	5
(3) 午前の意見交換 ワールドカフェ	6
●進め方.....	6
●流れとまとめ.....	8
●詳細結果.....	9
(4) 午後の意見交換 ワークショップ	18
●進め方.....	18
●流れとまとめ.....	20
●詳細結果.....	22
3. 参加者アンケートのまとめ	48
4. 市民討議会の写真	54
5. 大和市の子育てを取りまく状況	56

1. 開催概要

(1) 本事業の目的

これから大和市をより「子育てしやすいまち」にしていくにはどうすればよいか、市民の方々からご意見をいただき、市の取り組みの参考とするため、平成26年11月29日(土)に「やまと市民討議会」を開催しました。

開催にあたっては、普段、市に意見を述べる機会の少ないいわゆる「サイレントマジョリティ」と言われる方々に参加していただくため、無作為抽出した市民3,000名に案内を送付しました。

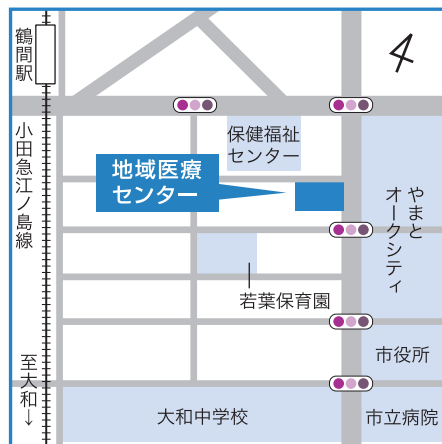
当日は、応募のあった29名と市内高等学校3校から生徒6名に参加していただきました。



(2) 当日のプログラム

日時：平成 26 年 11 月 29 日（土）

場所：地域医療センター2階 講習室



小田急江ノ島線：

鶴間駅東口から徒歩 10 分

バス：

コミュニティバス（北部ルート）「オークシティ前」下車すぐ

神奈川中央交通バス「オークシティ前」下車すぐ

・市民討議会は公開して行いました。

時間	所要時間	実施内容
9:30	-	受付開始
10:00	10 分	開会のあいさつ・市民討議会の目的について
10:10	20 分	大和市の子育てに関する取組状況と課題
10:30	20 分	市民討議会の進め方の説明
10:50	60 分	10 グループ（4～5 人）に分かれて 3 つのテーマについて席替をしながら意見交換を行います。 テーマ①：大和市の子育て環境の良いところ、自慢できるところを出し合おう テーマ②：大和市の子育て環境の気になるところ、なおしたいところを出し合おう テーマ③：将来、より子育てしやすくするにはどうすればよいかを出し合おう
11:50	30 分	グループ成果の発表
12:20	60 分	昼食・休憩
13:20	10 分	市長あいさつ 午前中の成果の共有と後半グループワークの進め方・テーマの確認
13:30	120 分	8 グループ（6～7 人）に分かれて、各グループが 1 つのテーマについて、意見交換を行います。 テーマ①：「子どもが生き生きと遊べる場」 テーマ②：「親子で外出したくなるまち」 テーマ③：「仕事と子育ての両立」 テーマ④：「子育ての不安を解消するには」
15:30	25 分	グループ成果の発表
15:55	20 分	各グループで良いと思った発表についてシール投票・まとめ
16:15	15 分	閉会のあいさつ・アンケート記入

2. 討議会の内容

(1) 大和市の子育てに関する取組状況と課題

市職員より、大和市の子育てを取りまく状況や、市で行っている子育て支援事業について、説明を行いました。



(2) 市民討議会の進め方

コーディネーターより討議の進め方について説明を行いました。

討議は、自由な意見を出し合うために、少人数で意見交換を行うグループワーク形式で実施しました。



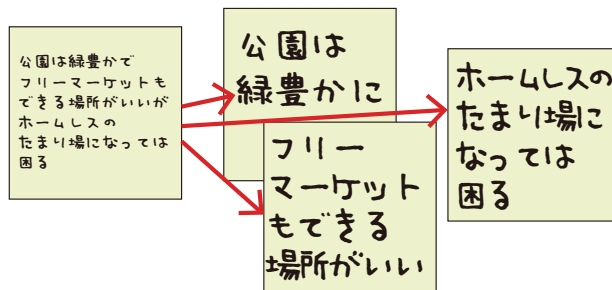
●話し合いのお約束

次のことを、話し合ううえでの約束事項としました。

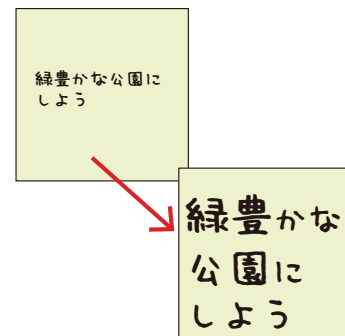
1. 全体の進行がスムーズにいくように協力しましょう
2. たくさんの事を言いたい時でもなるべく多くの方が議論に参加できるように配慮しましょう
3. 他の人の意見を否定したりせず、いろいろな考えの人がいることを理解しましょう

●付箋の書き方のポイント

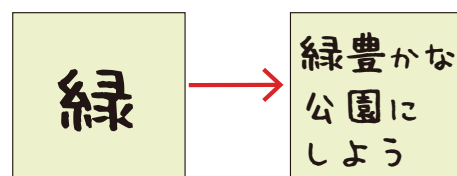
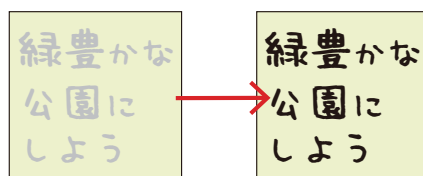
・1枚に1つのことを書く



・できるだけ大きな文字で書く



- ・配布しているサインペンを使って書く
- ・単語ではなく、何をどうしたいかがわかるように書く



(3) 午前の意見交換 | ワールドカフェ

●進め方

- ・大和市の子育て環境の良いところや課題を出し合い、10年後に自分たちのまちをどう良くしていきたいかについて、議論しました。
- ・討議は4～5人のグループに分かれて、3つのテーマについてワールドカフェ方式で意見交換を行いました。

【ワールドカフェとは】

「知識や知恵は、機能的な会議室の中で生まれるのではなく、人々がオープンに会話を行い、自由にネットワークを築くことのできる『カフェ』のような空間でこそ創発される」という考え方に基づいて、1995年にJuanita Brown（アニータ・ブラウン）とDavid Isaacs（デイビッド・アイザックス）によって開発された話し合い（対話）の手法です。

テーマ①：大和市の子育て環境の良いところ、自慢できるところを出し合おう

テーマ②：大和市の子育て環境の気になるところ、なおしたいところを出し合おう

テーマ③：将来、より子育てしやすくするにはどうすれば良いか出し合おう

1) 各テーブルに分かれて座ります

2) ヒトコト自己紹介

プロフィールシートを使って自己紹介をします。

3) テーマ①: 大和市の子育て環境の良いところ、自慢できるところを出し合おう

思いついたことを何でも出し合います。

4) テーマ②: 大和市の子育て環境の気になるところ、なおしたいところを出し合おう

5) 出し合った意見を書き出そう

テーマ①は青色の付箋に、テーマ②はピンク色の付箋に一人3枚ずつ書いて貼り出します。

6) 席替え

名札に示した座席情報を基に移動します。

7) 前のグループの振り返りと自己紹介

前のテーブルで話したことを振り返り共有します。

8) テーマ③: 将来、より子育てしやすくするにはどうすれば良いかを出し合おう

好きなところをのばし、気になるところをなおしたまちのイメージを出し合います。

9) 出し合った意見を書き出そう

黄色の付箋に一人3枚ずつ書いて貼り出します。

10) グループのベスト意見を選び発表しよう

他のグループに聞かせたい意見を一人1枚ずつシール投票で選び、発表者を決めて発表します。

テーマ①②のまとめシート

グループ **子育ての課題をみんなで共有しよう!**

テーマ1 大和市の子育て環境の良いところ、自慢できるところを出し合おう!

テーマ2 大和市の子育て環境の気になるところ、なおしたいところを出し合おう!

グループ **子育ての未来をみんなで考えよう**

テーマ3 将来、より子育てしやすくするにはどうすれば良いか出し合おう

産前	0~3歳	保育	就学

ベスト4にシールを貼る

テーマ③のまとめシート

●流れとまとめ

- ・ 3つのテーマについて9つのグループで話し合っていました。参加者のみなさんの意見をまとめると、次のとおりです。

大和市の子育て環境の 良いところ、自慢したいところ	大和市の子育て環境の 気になるところ、なおしたいところ	将来、より子育てしやすく するためのアイデア
<ul style="list-style-type: none"> ・ ファミリーサポートセンターをはじめ、子育て支援の制度が充実している。 ・ 医療費が充実している。 ・ みどりが多く、自然あふれる大きな公園がある。 ・ 交通の便が良い。コミュニティバスがあり、市内の移動がしやすい。 ・ スポーツができる施設がある。 ・ 中学校まで給食がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子育てが終わった世代と子どもが交流する機会がない。 ・ 子育てに関する情報をキャッチしづらい。 ・ 気軽に遊べる広場がない。 ・ 歩道に段差があるため、ベビーカーを押して歩きにくい。 ・ 治安に不安があるため、子どもを一人で歩かせるのが心配。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子育て家庭とシルバー世代をつなぐ機会をつくろう。 ・ 子育て情報の発信力を高めよう。 ・ 公園で子どもがもっと自由に遊べるようにしよう。 ・ 安心して子育てができるように、治安を向上させよう。 ・ 託児施設のある職場がたくさんあるまちにしよう。 ・ コミュニティバスを子どもが一人でも利用しやすくしよう。 ・ 子育ての相談をもっと身近にできるようにしよう。

●詳細結果

1 グループ**大和市の子育て環境の良いところ、自慢できるところ**

- ・小児の医療費がかからない
- ・医療費の助成が手厚い
- ・通学路付近の歩道が広い
- ・公園が多い
- ・緑が多い
- ・遊歩道がきれい
- ・川（境川）の沿道が整備されていて、ウォーキングに最適
- ・こどもーのスタッフが優しい人ばかり

大和市の子育て環境の気になるところ、直したいところ

- ・公園がバランス良く配置されていない
- ・道路に段差がある
- ・大和駅近くの治安が悪い
- ・歩道が狭い
- ・公園の緑が多いが草取りなどの管理が足りない
- ・幹線道路沿いの歩道があぶない！

将来、より子育てしやすくするにはどうすれば良いか（その他）**0～3 歳**

- ・子育て支援センターを増やす
- ・広報紙に告知情報をたくさん載せる！
- ・設備（ハコモノ）から中身の充実（特に人）
- ・妻が働かなくても良い社会（夫の給料等）

保育

- ・保育所の充実（場所や時間）
- ・親子のつどいに高齢者も参加できるようにする

就学

- ・学校などで土曜日にイベントを開催
- ・土曜日の学校開放
- ・公園での遊びを増やす
- ・それぞれに個性がある（自分で考えて行動できる）
- ・安心・安全にいられる場所を充実させる
- ・放課後、子ども達が自由に遊べる場所を整備する

※当日の出欠状況により、2グループは他のグループに統合しました。

3グループ

大和市の子育て環境の良いところ、自慢できるところ

- ・緑が多く静か
- ・自然の多い大きな公園がある
- ・子どもの遊び場となる場所が多い
- ・不妊治療支援の制度がある
- ・義務教育期間まで、子どもの医療費支援がある
- ・ファミリーサポートセンターがある

大和市の子育て環境の気になるところ、直したいところ

- ・明るい大通りと比べて狭い道が暗い
- ・外灯が少ない
- ・つきみ野周辺に図書館がない
- ・支援について情報が少ない
- ・大和市の情報をキャッチしづらい
- ・のろっとバスの本数が少ない
- ・子ども向け施設までの交通の便が悪い
- ・大和駅の反対側まで行きにくい

将来、より子育てしやすくするにはどうすれば良いか（その他）

産前

- ・子育て支援の情報をもっと分かりやすくする
- ・未婚の方の出会いの場をつくる
- ・シングル解消が子育ての基本！

0～3歳

- ・インフルエンザ予防接種の費用を少しでも安くする
- ・ひとり親世帯への支援を充実させる

保育

- ・幼稚園の月謝を安くする（夏休みは特に高い）
- ・幼稚園や保育所の兄弟割引を充実させる
- ・病気の子どもの保育施設を作る

就学

- ・通学路の車の交通量を改善する
- ・不審者のいない通学路設定にする
- ・勉強できる施設を充実させることで、学習面を強める
- ・両親が働いている子の放課後の過ごし方を充実させる

4グループ

大和市の子育て環境の良いところ、自慢できるところ

- ・医療費が無料で安心して病院に行ける
- ・子育て支援センターなどがある
- ・子育て支援センターが楽しい！
- ・全小学校に障がい児の支援級がある
- ・放課後児童クラブが障がい児を受け入れてくれる
- ・しんちゃんハウスに助けられました！
- ・放課後に子どもを見てもらえる場所が学校にある
- ・迷い人の放送がある
- ・ファミリーサポートがあっていつも助かっています！

大和市の子育て環境の気になるところ、直したいところ

- ・育児教室などの定員を増やしてほしい
- ・放課後児童クラブが満員で入れない
- ・中央林間エリアに子育て拠点がない
- ・保育施設が少ない
- ・小学校高学年、中学校以降の障がい児の預け先がない
- ・大和市は不審者が多いと聞いている
- ・大和駅から離れている所の交通が不便
- ・養護学校に通う足がなくて大変
- ・大人が子育てに関心をもっていない

将来、より子育てしやすくするにはどうすれば良いか（その他）

産前

- ・産前のサポートが必ず全員に行き渡るように周知する
- ・産前学級で大和のいいところアピール！して人口流出を防止する

0～3歳

- ・基本的育児だけでなくスキンシップ遊びを学べる教室イベントを開催
- ・ママ起業フリーランスで子どもと一緒にいながら働く！を支援

保育

- ・行政の業務としての窓口・サポートだと個人的な悩みを言いにくい人も多い
- ・支援をしたい人（おじいちゃんおばあちゃん）との密接な関係づくり
- ・頼れる窓口があっても、頼り慣れていないと敬遠する方が多いため、機能しない
- ・子育ての相談窓口の充実を進めていく
- ・支援したい人と支援してほしい人をつなぐ仕組みを周知する！

就学

- ・子ども自ら行ける距離に遊び場を設置する
- ・両親が働いている子の放課後の過ごし方を充実させる

5グループ

大和市の子育て環境の良いところ、自慢できるところ

- ・公園に遊ぶ広場がある
- ・公園の数が多い
- ・公園の木の本数が多い
- ・コミュニティバスの運行が大変よい
- ・各自治会でコミュニティイベントを開催している
- ・4ヶ月児健診の会場でブックスタート事業が行われている

大和市の子育て環境の気になるところ、直したいところ

- ・公園の管理不足でお手洗いが使えない
- ・噴水が掃除されていなくて水が出ていなかった
- ・歩きタバコの取り締まり不足。火や副流煙は子どもの健康に影響する
- ・ベビーカーでも歩きやすい道の整備
- ・小規模図書館（室）の充実
- ・母親が体調を崩した際などすぐに子どもをあずけられない

将来、より子育てしやすくするにはどうすれば良いか（その他）

0～3歳

- ・ブックスタートでの保育士の活用
- ・育児及び病後児の為の保育を充実
- ・幼・保各園に子育てアドバイザーを配置
- ・交通面を充実させる（ベビーカーでの移動、妊婦さんの移動）
- ・交通量が多いと危ないのでマナーなど改善
- ・リトミック教室などを開く
- ・4ヶ月児健診の保育士による育児相談コーナーを設置する

保育

- ・保育ママを利用しやすくする

就学

- ・障がい児の放課後子ども教室での対応を1対1にする
- ・自然を活かしたプレーパークを設置
- ・公園を巡回する
- ・親子が集まるイベントの開催
- ・コミュニティの場を充実させるため、マンション単位で小さい公園を活用

6グループ

大和市の子育て環境の良いところ、自慢できるところ

- ・高校で保育所等でのボランティアがある
- ・子育て支援センター、こどもーるなど行政の関心が進んでいる
- ・公園広場が充実している

大和市の子育て環境の気になるところ、直したいところ

- ・子育て終了世代と現役世代との間にギャップがあるように思える
- ・手軽に遊べる広場がない

将来、より子育てしやすくするにはどうすれば良いか（その他）

産前

- ・子育て支援に関する情報を一元化することで、さらに伝える努力を増やす
- ・子育てに必要な情報を病院や学校等で得られるようにする

0～3歳

- ・歩道を広くして全ての人が不安なく歩けるようにする

保育

- ・病児保育、障がい児保育に取り組んでいる東京のNPO フローレンスに大和市も相談してほしい
- ・年配の方に活躍していただける為のコーディネート強化する
- ・子育てが終わった世代と子どもが出会う場所を作る

就学

- ・中学以降の通学・学童保育支援にコミュニティバスを活用
- ・防犯（道が暗い）。学校付近も暗い
- ・学校の役員や地域の役員に地域の子育てに参画してもらう

7グループ

大和市の子育て環境の良いところ、自慢できるところ

- ・医療費補助が充実している
- ・金銭面で十分な制度がある
- ・公園が広くて遊びやすい
- ・公園がいっぱいある
- ・ハロウィン等のイベントがある
- ・保育所の開放日がある
- ・子育ての支援がとても充実している
- ・保育所等の送迎サポートがある
- ・保育所や学校など、子どもを預かってくれる所が多い

大和市の子育て環境の気になるところ、直したいところ

- ・情報を知る機会がない
- ・情報の共有がない
- ・地域のコミュニケーションがない
- ・地域やご近所の付き合いが少なくなっている
- ・小さい子どもとのふれあいがあると良い
- ・子どもの遊び方への地域の方々の理解が足りない
- ・学校の役員や地域の役員の役割負担が大きい
- ・治安が悪い
- ・自転車の通る道が歩道や車道から分離されていない

将来、より子育てしやすくするにはどうすれば良いか（その他）

産前

- ・出産費の助成をもっと充実させる

0～3歳

- ・地域全体で子どもとふれあう機会をつくる
- ・地域で子どもの見守りをする事で明るい地域にしていく

保育

- ・保育所をさらに増やす
- ・保育所が駅近くにある
- ・情報を提供するため、メールや SNS ツールを活用する
- ・親子で遊べる場所を整備
- ・道路整備を進める

就学

- ・小中学生の給食費を免除する
- ・放課後の遊び場などを確保

8グループ

大和市の子育て環境の良いところ、自慢できるところ

- ・市内8つある駅の近くに保育所が建設されている
- ・計画的に都市が作られている
- ・夜間医療等が整っている
- ・緑がある公園
- ・子ども達が気軽に色々なスポーツができる施設がある

大和市の子育て環境の気になるところ、直したいところ

- ・子育て支援センターが不便なところにある
- ・小中学校の学力が低い
- ・自転車道と車道を分ける
- ・親子で遊べるところが駅の近くにない
- ・不要となった空きビルや空き家が数ヶ所ある
- ・せっかく公園に遊具があるのに整備されていない
- ・遊具のない自由に遊べる（球技等）スペースがない

将来、より子育てしやすくするにはどうすれば良いか（その他）

産前

- ・よい計画や支援があるのに子育て世代に伝わっていないので、その発信方法を考える
- ・検診の際（お誕生日前3ヶ月健診等）などに、市の子育て施策をアピールしてお得感を伝える
- ・プレママに支援があることを知らせる
- ・支援を知らせる手だてを考えてほしい
- ・子育ての知識を周知する

0～3歳

- ・職場に育児施設を設け、そこで親と子どもが休憩や昼食がてらコミュニケーションをとれるようにする

保育

- ・保育所で風邪を引いた時、帰らされていたが、子どもの気持ちとしては、親といられるのでうれしかった
- ・公園を幼児、小学生など年齢や目的別に使い分ける

9グループ

大和市の子育て環境の良いところ、自慢できるところ

- ・ 泉の森は小さい子どもが自由に遊べて自然が豊か
- ・ 引地台公園にアスレチックがある
- ・ 公園が多い
- ・ 大和市は結構緑が多く大きな公園が何ヶ所もある
- ・ 自転車専用道がある
- ・ 市の支援が多い
- ・ 交通が便利
- ・ 給食が中学まである
- ・ 医療費が充実
- ・ 8つの駅の近くに保育所がある

大和市の子育て環境の気になるところ、直したいところ

- ・ 児童公園で遊びの制約が多い
- ・ サッカーの練習などボール遊びができる場所を増やしてほしい
- ・ 治安が悪い（と思われている）
- ・ 高齢者や障がい者に優しくない道路
- ・ 子育て支援センターが不便なところにある
- ・ 小中学生の学力が低い
- ・ 病児保育を利用できるところが少ない
- ・ 子育て支援センターに駐車場がない

将来、より子育てしやすくするにはどうすれば良いか（その他）

0～3歳

- ・ 子育て情報を分かりやすく発信する
- ・ インターネットを活用する

保育

- ・ 子育て支援センターを拡大する
- ・ 子育て優良企業の表彰
- ・ 育児休暇の充実
- ・ 駅近くに保育所を増やす
- ・ 子育て世帯の住宅と保育所をセットでつくる
- ・ 保育所の送迎バスを走らせる
- ・ 労働条件の改善
- ・ 子育て特区をつくる
- ・ 子育て世帯を優遇する（税など）

就学

- ・ 学力の向上
- ・ 児童の学力アップのため寺子屋等を充実

10 グループ

大和市の子育て環境の良いところ、自慢できるところ

- ・ 保育所が多い
- ・ ファミリーサポートセンターがとても便利
- ・ 保育士・保健師さん達が常にいる子育て支援センターがある
- ・ ゆとりの森等大きな公園がある
- ・ 医療費の助成がある（中学生まで）
- ・ 中学生まで給食がある！

大和市の子育て環境の気になるところ、直したいところ

- ・ 病児保育が少ない
- ・ 不審者が多い
- ・ 中学生の不登校が多い気がする
- ・ 公園遊具の老朽化
- ・ 子育て支援センターが1つしかない
- ・ あひる公園がうっそうとしている（木々が茂っている）

将来、より子育てしやすくするにはどうすれば良いか（その他）

産前

- ・ ママの心のサポート

0～3歳

- ・ ファミリーサポートセンターの周知

保育

- ・ 泉の森公園をもっと周知してほしい

就学

- ・ 大和市に大学を誘致
- ・ 不登校の子どもをサポートする専門の人を各学校に配置するなど、体制強化を図ってほしい
- ・ 習い事を安い価格で市が行うようにできると良い
- ・ ファミリー層をターゲットにした施設を駅チカへ
- ・ 安心して育てられるために治安を向上させる
- ・ ファミリーサポートセンターの支援会員の育成

(4) 午後の意見交換 | ワークショップ

●進め方

- ・大和市の子育ての現状と、主な課題をテーマに具体的な問題を洗い出し、将来に向けた解決イメージを出し合いました。
- ・6～7人で1つのテーマについて意見交換をしました。
- ・整理した課題について、グループ内で投票を行い、重要度を確認しました。
- ・最後に、課題に対する解決策を短冊に書いてグループごとに発表し、最も大切だと思ったものについて投票を行いました。

グループ①②：「子どもが生き生きと遊べるまち」

グループ③④：「親子で外出したくなるまち」

グループ⑤⑥：「仕事と子育ての両立」

グループ⑦⑧：「子育ての不安を解消するには」

1) 8つのテーブルに分かれて座ります

2) 午前中の議論を振り返ろう

進行役が午前中の議論をまとめ、共有します。

3) 30秒自己紹介

プロフィールシート、テーマについて紹介します。

4) テーマの確認

テーマに関する補足や、午前中の議論の中で出たテーマに関する意見を振り返ります。

5) テーマに関する課題を整理しよう

テーマに関して問題だと思うことを1人3~4枚付箋に書き出し、グループの中で同じような意見があれば集約するなど、課題の整理をします。

6) 重要な課題から解決アイデアを出し合おう

整理された課題はシール投票で重要度を確認し、重要度の高いものから、将来に向けた解決イメージを出し合います。

7) アイデアをまとめて発表しよう

解決アイデアをシートにとりまとめ、発表者を決めて全体でアイデアを共有します。

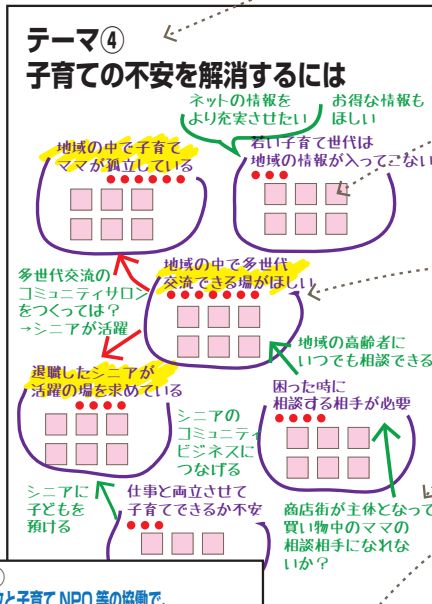
8) 会場全体で出てきたアイデアをシール投票

他のグループのアイデアを含めて、大切だと思うアイデアにシール投票をします。

9) まとめ

本日の議論の成果を確認します。

後半議論の模造紙のイメージ



テーマ④
企業と行政と子育てNPO等の協働で、
子育て世代に地域情報を届けるインターネットの
サービスを充実させる

テーマ④
退職後のシニアが、地域のNPOと連携
しながら子育ての相談に乗れる場をビジネスとして
運営する。行政はノウハウのサポート

後半議論のまとめシート

テーマ④
地域の子育てをする親を地元のシニアが気軽に見守る
ことのできる多世代コミュニティサロンを行政や社協、
子育てNPOが連携してつくる

テーマ④
地元商店街と子育て系の団体が連携し、「子育てママ
の相談に乗れる商店街」として確立し、買い物中に
気軽に声かけや悩み相談ができる体制をつくる

●流れとまとめ

4つのテーマに分かれて、各グループで話し合っていた
 いただきました。その後、最も共感できるアイデアについて
 参加者全員で投票を行いました。

表の見方

グループ
番号

課題

解決アイデア

※太枠はグループごとに最も
 投票数が多かったアイデアです。

テーマ① 子どもが生き生きと遊べるまち

1グループ	子どもたちが自由に遊べる場所が少なくなっている	公園で自己責任で危険なことも含めて自由に遊べるように、大人が遊ぶ子どもたちを見守る仕組みをつくろう	1グループ	共働きが増え、親と子どもと一緒に遊ぶ機会が減ってきている	親子で遊ぶ機会を増やすために「親」も熱中できる、まちでの遊びやイベントを開発しよう
	子どもが遊びながら運動できる施設や遊具がない	子どもたちの健康づくりのために、遊びながら運動できるような施設や遊具を増やそう		2グループ	多世代が出会う場所や機会がないために縦のつながりがない
	外での遊び方を知らない子どもが増えている	遊びを通じて子どもが「勝つことのうれしさ」「負けることのくやしさを学ぶことで、子どもの「思いやりのあるコミュニケーション能力」を育てよう	2グループ		大人目線の制約が子どもの自由をうばっている
	地域の人と子どもが交流する機会を持つのが難しくなっている	地域住民が「遊び方」「遊びの楽しさ」を知らない子どもたちに、学校の授業の一環で遊びを教える仕組みをつくろう		2グループ	まわりの大人の理解が足りない、あるいは異なる考え 方同士の理解不足

テーマ② 親子で外出したくなるまち

3グループ	子どもが安心して遊べる公園づくりが必要 授乳施設等安心して外に出られる設備があるとよい	広い公園の見守りや清潔さの保持等、管理を向上させて、皆が安心して行きたく なるような公園を増やしていこう	4グループ	移動の手段としてのコミュニティバスを充実させる	コミュニティバスの活用目的を広げるために、見守りボランティア、イベントバスの運行など、使い方を市民が提案できる“場”をつくろう		
	移動手段が不足している	ベビーカーを気兼ねなく乗せられるようにコミュニティバスを充実させよう		4グループ	親子で文化に親しめる環境をつくること が必要	音楽、文学（図書館）、美術に子どもの頃から接する機会を増やしていくために、その分野で活動している人をしっかり支援する枠組みをつくろう	
	遊びに行きたくなるイベントが少ない	一方的なイベントではなく「参加型」や「いろんな人に会う」ことがコンセプトのコミュニティづくりイベント「井戸端・大和」を各地で開催しよう	4グループ		外出したいと思える場所やイベントの充実が必要	大規模な商業施設、公園、空き家、公共施設のロビーなどを活用し、普段の生活で気軽に文化にふれることができるイベント・音楽会などを開催しよう	
	大和市ブランドがない	「井戸端・大和」で読み聞かせや植木市等、老若男女が参加できる企画を開催し、大和ブランドに育て上げよう		4グループ	情報の発信が少ない	4グループ	集まれる場所があるとよい

テーマ③ 仕事と子育ての両立

5 グループ

地域とのつながりをより深めることが大切	シルバー世代にできることから支援してもらおう体制をつくろう
ファミリーサポートセンターなど、市の取り組みの情報が届かない	ファミリーサポートセンターにシルバー世代が気軽に登録できるような仕組みをつくろう
放課後に障がい児を預ける場所や制度が足りない	必要な情報を届けるために SNS やメールマガジンで配信して携帯電話などで取得できるようにしよう
養護学校が大和市にないため、学校への通学が大変	民間の学童や保育施設で障がい児を受け入れられるような支援と仕組みづくりをしよう
治安が悪く子どもを残して働きに行くのが心配	学校の前に停留所を設置することや、コミュニティバスによる地域の見守りなどを進めよう
子どもを預けられる場所を増やし充実させることが大切	仕事中に子どもを預けられるように、「子どもの急病に備えて病院と企業が提携」「企業の空き部屋や会議室を子育てスペースとして開放」「緩く働ける企業を誘致」させよう
子どもが病気の時に仕事を抜けられないことが心配	
子どもを預けられる場所を設置するなど企業の協力が必要	

6 グループ

身近な保育園の充実や働きやすい環境づくりが大切	会社の中に保育所ができるように行政も支援しよう
男性の子育てへの参加が課題	地域で支える、支え合う関係を IT 技術も活用して実現しよう
職場や地域の子育てへの参加が大切	
子育ては一代事業、子どもの成長を見守る視点が大切	子育て家庭に専門家が外向き相談できる仕組みや、保育の実習生が子育てをサポートしてくれる仕組みをつくろう
	子どものために、保育園、幼稚園までは、同じ考え方で保育・教育をしよう
経済的な保障がないと働く時間が長くなる	行政の子育てに関する経済的保障は、必要としている子育て家庭に行おう
シングル親への支援策が必要	
女性の就労復帰への検討が必要	成長に合わせて就労時間を徐々に増やしていくなど、子育て中の女性の段階的な就労復帰のための環境を整えよう

テーマ④ 子育ての不安を解消するには

7 グループ

子育て支援センターのような仲間づくりや相談、交流できる場所が不足している	子育て特区として駅の近くに保育施設、子育て世帯用住宅、公園、病院施設等のあるまちをつくろう
	既存施設や空きビルなどを活用して「こどもーる」をたくさんつくろう
仕事を休みにくいため祖父母への負担が大きくなる	優良企業の表彰など、子育てに優しい企業を大和市が応援しよう
子どもの学力が低下していることが教育面で不安を感じる	低価格で参加できて、子どもに学びのきっかけを与える文化プログラムやイベントを増やすため、民間組織の活動を市が支援しよう

8 グループ

親は周りに対する不安でいっぱい、常に周りを気にしてしまう	周りの人にニッコリされるだけで子どもという親御さんは救われるので、みんなでニッコリ運動を始めよう
日頃赤ちゃんと接する機会がなく、はじめて接するのが自分の子で、子どもの面倒の見方が分からない人が多い	学習センターを多目的活用し、新聞を読む人、勉強する人、親子連れなど、世代を超えて出会える機会をつくろう
通学路に不審者情報が多く、夜も道が暗いため毎日心配	不審者防止のために、街灯の増設等を高校生徒会から地域に掛け合うとともに、地域の男性を中心とした見守り隊の取り組みを始めよう
	若い人の意見を聞く場を続けて、多様な世代の意見交換を大切にしよう
子どもをつくりたくないと考えている人に出産・育児を考えてもらいたい	核家族では、家事や経済的負担が大きくなってしまいうため、家族を拡大化し、子育てしやすい・出産しやすい環境をつくろう
働こうと思っても、子どもの預け先がない	



●詳細結果

■グループ1 子どもが生き生きと遊べるまち

●議論の流れ

- ・「遊び場の充実・有効活用」「遊びを通じた健康づくり」「遊び場のマネジメント体制づくり」「遊び教育」「遊びを通じた世代間コミュニケーションの再生」と大きく5つの論点で意見交換が行われた。
- ・「遊び場の充実・有効活用」については、泉の森、ゆとりの森公園、引地台公園など広く魅力的な公園が多いが交通の便が悪く気軽に行けない問題が指摘され、コミュニティバスの本数や路線の充実が提案された。また、季節や天候に限らず遊べる場として「こどもーる」への評価が高く、さらに増やすことが提案された。
- ・「遊びを通じた健康づくり」については、スポーツ少年団や子ども会行事の減少等で、子どもが学校以外で運動する機会が減っているため、遊びながら自然に運動できるような施設や遊具づくりの工夫が提案された。
- ・「遊び場のマネジメント体制づくり」については、既存公園では管理上の問題や周辺住民への配慮の観点からボール遊びができないなど、子どもが自由に遊べない環境になっている問題が指摘され、プレイパークのような公園マネジメント体制づくりが提案された。
- ・「遊び教育」については、ゲームや携帯など個人で遊ぶツールが増えたことで、子どもが友人同士で外遊びする機会がさらに減ると、コミュニケーション能力の低下につながるのではないかという問題が指摘された。子どもが「勝つことのうれしさ」「負けることのくやしき」を子ども同士の外遊びを通じて、体で実感することが、豊かなコミュニケーション能力の育成につながるという考え方が共有され、外遊びの役割の再認識につながった。
- ・「遊びを通じた世代間コミュニケーションの再生」については、近所付き合いの希薄化や子どもの防犯対策の強化といった時代の流れの中で、高齢の方が子どもに挨拶すらしにくい環境になっていることが問題として指摘され、学校を世代間コミュニケーションの再生の場として位置づけ、高齢の方が子どもたちに授業の一環として遊びを教えるはどうかというアイデアが出された。また、共働き家庭が多くなる中、親子間のコミュニケーションも希薄化しつつある問題が指摘され、親と子を「遊び」でつなぐため、親自身も熱中できて積極的に子どもと遊べるような、まちを使った遊びイベントを企画してはどうかというアイデアが出された。

課題（個別意見）		解決アイデア（個別意見）
例	課題（●グループの中で最も重要度が高いものとして選んだ人数、○2番目、3番目に重要なものとして選んだ人数） ・個別意見	解決アイデア（シール投票数：グループ発表後、参加者が大切だと感じて投票した数） ・個別意見 (以下、同様)
1	市内にたくさんある子どもが遊びに行きたい公園へもっと行きやすいようにしたい（○1人）	・交通の便が悪くても、わざわざ行きたくなるようなイベントを頻繁に開催する ・公園へ行けるコミュニティバスの本数を増やす

	<p>(意見ポストイット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きな公園が結構あるが遠くて行く機会が少ない ・泉の森、ゆとりの森、引地台公園の交通の便が悪い ・公園へ行けるバスの本数が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・公園を循環するコミュニティバス路線をつくる
2	<p>季節や天気に関係なく、子どもが年中いつでも遊べる場所があると良い</p> <p>(意見ポストイット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雨が降ると遊べる場所が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・雨が降っても遊べる大型施設が欲しい ・多少の雪でも外遊びができるような屋根付きの砂場をつくる ・民間施設と連携して「こども一る」をもっと増やす
3	<p>子どもが遊びながら運動できる施設や遊具がない (○3人)</p> <p>(意見ポストイット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ少年団、ボーイスカウト、子ども会などが減ったことで、子どもが運動する機会も減っている ・遊びながら運動できる施設がない 	<p>子どもたちの健康づくりのために、遊びながら運動できるような施設や遊具を増やそう (シール投票数1票)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲーム感覚で遊びながら運動もできる施設があると良い
4	<p>子どもたちが自由に遊べる場所が少なくなってきた (●1人、○2人)</p> <p>(意見ポストイット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近所迷惑等の理由で子どもが公園で思いっきり遊べない ・幼児連れの親の目もあり、小学生が公園でボール遊びができない ・子どもに危ない事を経験させる機会が少ない 	<p>公園で自己責任で危険なことも含めて自由に遊べるように、大人(地域住民)が公園で遊ぶ子どもたちを見守る仕組みをつくろう (シール投票数8票)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今ある公園で、子どもが遊ぶのを見守るプレイリーダーがいると良い ・子どもに危ないことも経験させることで危険回避能力を学ばせる
5	<p>外での遊び方を知らない子どもが増えてきている (●3人)</p> <p>(意見ポストイット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外での遊び方を知らない ・家でゲーム以外の遊びをしない ・スマートフォンは魅力的だが、そればかりで遊ぶ ・トランプは、かけひきがあって人間関係が面倒くさくなるからやらないということを聞いた ・ゲームばかりして子ども同士で遊ばなくなると、コミュニケーションの仕方がわからない子が増える 	<p>遊びを通じて子どもが「勝つことのうれしさ」「負けることのくやしさを学ぶことで、子どもの「思いやりのあるコミュニケーション能力」を育てよう (シール投票数5票)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びを知っている子どもを増やしたい
6	<p>地域の人と子どもが交流する機会を持つのが難しくなっている (○1人)</p> <p>(意見ポストイット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大人が子どもに声をかけることが難しい時代になってしまった ・核家族が増え、子どもが高齢の方と遊ぶ機会が減った 	<p>地域住民が「遊び方」「遊びの楽しさ」を知らない子どもたちに、学校の授業の一環で遊びを教える仕組みをつくろう (シール投票数0票)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の授業で、高齢の方が遊びの授業をする ・学校が積極的に地域の方々を対象に遊びの先生を募集する ・高齢の方が自分の得意分野で気軽に学校に関われるように、事前に「こんな遊びが教えられる人材リスト」を作っておく ・高齢の方が子どもたちに昔遊びを教える ・放課後に地域の方に来てもらって一緒に遊ぶ
7	<p>共働きが増え、親と子どもと一緒に遊ぶ機会が減ってきている (○1人)</p> <p>(意見ポストイット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもと両親の関わりが希薄になっていないか(仕事時間等) 	<p>親子で遊ぶ機会を増やすために「親」も熱中できる、まちでの遊びやイベントを開発しよう (シール投票数0票)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが遊びを楽しむためには、親が楽しんでいることが大切 ・親子で「競う」ような遊びがよい。競うことは人間関係を育む ・公園にミニ動物園があると親子で楽しめる ・大きな公園(泉の森、引地台公園等)の中に親子でサイクリングが楽しめる自転車道が欲しい

■グループ2 子どもが生き生きと遊べるまち

●議論の流れ

- ・「子どもが生き生きと遊べるまち」の議論の中で、公園の遊具が撤去されてしまう現状について問題提起があった。子どもの創造性や危険に気づく力を養う上でも、遊具は重要であるにもかかわらず、ケガをする危険性があるから遊具を撤去するというのは一方的であり、そのことがかえって子どものゲーム遊びの促進につながり、屋外で生き生きと遊ばなくなる悪循環が起きているとの指摘があった。
- ・その背景として、大人が遊び心を忘れてしまい、子どもの気持ちが理解できなくなっているという点があげられた。また、子育て中の親によって遊びと危険に対する考え方（価値観）の違いがあるという意見が出された。
- ・また、地域の日常的なつながりやコミュニケーションの希薄化が子どもの外遊びに影響している点も指摘された。ママ友など同世代での交流はあっても多世代間での交流がないため、他人の子どもに気軽に声をかけにくく、危険について注意しなくなっているという意見がでた。地域の中で子どもを見守る目がないことも安心して外で遊べない要因になっているなどの意見が出された。
- ・これらの課題を解決するには、親や周りの大人たちがまずは意識を変えていく必要があり、その解決策として「おとなよ、変われ！大人の意識改造計画」が提案された。具体的には、大人と子どもが参加できる楽しいプログラムを市主催等で開催することにより、子どもが生き生きと遊ぶ姿を大人が目にし、親同士が互いの考え方を交わし合う機会をつくる中で、子ども本来の遊びについて気づいてもらうというものである。また、プログラムを開催するにあたり、鉄道会社等にも協力してもらい多様な方法で情報発信することも重要な点としてあがった。
- ・さらに、子どもが危ないことをしていれば誰でも注意できるような地域づくりを進めるために、日常的にあいさつを励行し顔見知りを増やすという提案があった。

課題（個別意見）	解決アイデア（個別意見）
<p>1 大人目線の制約が子どもの自由をうばっている（●2人、○2人） （意見ポストイット）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケガ人が出たからと遊具がすぐになくなってしまふのがもったいない ・遊び心を忘れた大人目線からの制約が多すぎる（危険重視で何もできない） ・危ないからといって遊具が撤去されて減っている ・（公園に遊具がなくなると）子どもが自分で考えて遊べない ・ゲームで遊ばざるをえない、外でもゲームで遊ぶようになる ・自分で危険に気づく力がなくなる ・だから生き生きと遊べなくなり、悪循環がおきている。 	<p>まず大人が変わることが必要。「おとなよ、変われ！大人の意識改造計画」をすすめよう（シール投票数6票）</p>

2	<p>まわりの大人の理解が足りない、あるいは異なる考え方同士の理解不足 (●2人、○2人)</p> <p>(意見ポストイット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもがいない人の理解不足が子どもの遊ぶ声に対するクレームになるのではないか ・歩きタバコなどの取り締まりが不足しているので小さい子の顔の高さにある火の危険性や副流煙の健康被害につながっている 	<p>大人と子どもが参加できる楽しいプログラムを開催して、一緒に過ごす中で、違う考えを交わし合う機会をつくろう (シール投票数2票)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・違う考えを交わし合う機会になる ・机をはさむと堅苦しいからよくない ・たとえば泉の森のバーベキュー ・第一印象が大事！(印象がいいと口コミで他の人を呼ぶことにつながる)
3	<p>多世代が出会う場所や機会がないために縦のつながりがない (○4人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡単に子どもに声をかけられない ・不審者、犯罪防止対策としての地域コミュニティづくりが重要 ・横のつながりがあっても(世代の)縦のつながりがなく、地域の中に子どもを見守ってくれる人の目が少ないので自由に遊ばせられない 	<p>子育ての情報発信は、世代ごとに方法を工夫しよう (シール投票数2票)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SNSの活用 ・回覧板、ポスターの掲示、バスや鉄道(小田急線など)の車内広告を活用 ・大和市に情報発信に協力してもらう <p>あいさつや声掛けを推進しよう (シール投票数11票)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今、高校ではあいさつを推進しているので、地域でも行うのはどうか ・「知らない人」を「知り合い」にしていく
4	<p>公園の管理が不足している</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トイレが使いたくない雰囲気 ・公園は遊ぶところなのに住んでいる(ホームレス)方がいるのは問題 	<ul style="list-style-type: none"> ・管理が行き届くことにより、安心して公園が使えるようになる
5	<p>大人が公園でなかなか遊べない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもと親と一緒に楽しめる公園づくりをしたい
6		<p>[その他の解決アイデア]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分で考えて遊び方を変えられる所が1つでも多くあると良い(ジャンглジムなど) ・ほどよく広い遊び場があると良い ・まわりの人や物を気にせず「自由」に遊べる所 ・自由に使っていい運動場などがあれば、生き生き遊べると思う ・いろいろ遊具が充実しているとそこに子どもが集まる ・学校の校庭でやるスポーツ試合を地域で観戦できたらいいと思う

■グループ3 親子で外出したくなるまち

●議論の流れ

- ・親子での外出をテーマに話し合う上で、大和市内に遊びに行きたいと思える「場所」や「イベント」等が不足しているという指摘が、議論のスタートとなった。新たな場所を設置するような大掛かりな話ではなく、近場の公園等でも、防犯・補修・清掃といった総合的な管理を充実させることで、安心して子どもを連れて行ける場所になる、という意見があった。常に子どもを見守るのは大変だが、3世代で気軽に遊びに行けるような場所ができると、祖父母と孫が交流できて、また親は自分の時間ができるので、そのような環境が近場にあると良いという意見もあった。授乳施設の設置、お金のかからない施設の充実等、子どもを持つ親の細かなニーズを捉え、それを解決していく視点も重要なテーマとなった。
- ・また、現在ある「泉の森」「引地台公園」といった大きな公園を有効活用したイベント等について、主催者側が一方的に行うのではなく、「参加型」で、そこに行けば地域の仲間ができ

るような、コミュニティづくりを主にしたイベントができると良いという意見があった。コミュニティが充実してくれば、そこで読み聞かせイベントを開催し、また「井戸端・大和」といったキャッチフレーズを作り、定期的にイベントを開催していくことによって、大和らしい新たなブランドづくりにつながるのでは、というアイデアもあった。

- ・自動車の所有者が減少してきている中、市内での移動手段についても意見交換を行った。電車やバス等、通常の公共交通機関に加え、数路線あるコミュニティバスのサービスは、バスの停車する地域の利用者の足の1つとなっているが、ベビーカーを使用する親子の場合、乗ることはできてもスペースを必要とすることから他の乗客の迷惑になり、肩身の狭い思いをするため、スペースに余裕のある仕様のバスを活用し、運行本数を増便する等も、家に引きこもらず、遊びに行く上でのハードルを下げることにつながるといった意見があがった。

課題（個別意見）		解決アイデア（個別意見）
1	移動手段が不足している（○3人） （意見ポストイット） ・交通機関 天候による（雨等） ・移動手段の不足	ベビーカーを気兼ねなく乗せられるような、楽しい相乗りコミュニティバスを充実させよう（シール投票数4票） ・車を所有していない人が増えてきているため、その穴埋めとなる移動手段が必要となる ・ベビーカーを乗せても周りに迷惑のかからないようなコミュニティバスがあるとよい（スペース/本数など） ・乗り捨て可能な自転車、カーシェア等が普及すると良い
2	大和市中に行きたいと思える場所が少ない（●1人） （意見ポストイット） ・行きたいと思う場所がない（知らない）	
3	家の近くに良い場所がない （意見ポストイット） ・住居の場所によって不便な場合もあるので、今は車で出掛ける人が多い	

4	大和市ブランドがない (意見ポストイット) ・ブランドがない	「(仮)井戸端・大和」で読み聞かせや植木市等、老若男女が参加できる企画を開催し、大和ブランドに育て上げよう(シール投票数2票)
5	遊びに行きたくなるイベントが少ない(●3人) (意見ポストイット) ・親子で行きたくなるイベント情報の入手 ・大和市の行事として、親子で出掛けたくなるテーマを考え、定期的にプロムナードなどで開いて欲しい。	一方的なイベントではなく「参加型」や「いろんな人に会う」ことがコンセプトのコミュニティづくりイベント「井戸端・大和」を各地で開催しよう(シール投票数1票) ・一方的なイベントでなく、「参加型」「会いに行く」を主としたコミュニティづくりのイベント「井戸端・大和」ができると良い ・出会いの場、パワースポット、ここに行けば素敵な出会いがある！など、イベントの中身づくりをしっかりしていくことが重要 ・ベッドタウンで終わらず、地元での友だちづくりができると、大和で遊ぶ人が増えて、市内でお金が使われることで大和の活性化に繋がる
6	子どもが安心できる公園づくりが必要(○4人) (意見ポストイット) ・防犯、安全面	広い公園の見守りや清潔さの保持等、管理を向上させて、皆が安心して行きたくなるような公園を増やしていこう(シール投票数9票) ・公園は広いと物騒に感じるため、見回りや管理があると安心できる。見渡しやすい空間づくりができると良い ・休めるスペース、清潔なトイレやベンチなど、管理面を行き届けるだけで、遊びにいきたい場所は多くなる
7	授乳施設等安心して外に出かけられる設備があるとよい (意見ポストイット) ・授乳施設の充実	
8	祖父母も楽しめる、共にくつろげる環境があるとよい(○1人) (意見ポストイット) ・親、祖父母、子、共にくつろげる施設 ・親子で遊んでいる時は祖父母が、祖父母と子どもが遊んでいる時は親がそれぞれゆったりできるとよい	・今度新しくなる大和駅の文化創造拠点に、親子で参加できる場所を期待している。 ・中国では、公園で遊んでいる子どもの傍らで、将棋や太極拳をやっていて雰囲気がとても良い
9	天候に左右されずに過ごせる施設が少ない (意見ポストイット) ・内外で遊べる天候に左右されずに過ごせる施設(昼食場所)があるとよい	
10	子どもが成長すると親子で外出する機会がつかれない (意見ポストイット) ・親子の不仲、一緒に出掛ける理由がない	・花火大会等、子どもだけでは移動が難しいイベント等だと、一緒に出掛けることがある
11	お金をかけずに外出したくなる施設が少ない (意見ポストイット) ・お金がかかる	・利用料が安ければ行きたい！と思える施設は多くある

■グループ4 親子で外出したくなるまち

●議論の流れ

- 親子で外出したくなるためには、外出したいと思える動機となる楽しさが必要であり、そのために必要な要素として「音楽、芸術、文学（図書館）などの文化面の充実」「外出したいと思える魅力的な場所」「イベントの充実」などがあげられた。
- クラシック音楽を広げる活動をすでに実施している参加者から現状の課題が指摘された。たとえば、お金がかからないように工夫しながら小さなコンサートを続けてきたが最低限の資金は必要であり、その理解が得にくい（ボランティアなのだからお金はいらないと考える人が多い）こと、小規模な音楽会を実施できる「集まれる場所」の確保が困難なこと、良いイベントがあっても市民に知られていない、などの意見が出た。
- すでに行われている文化活動を支援し、充実させていくためには、民間の施設や公共施設の一部などを確保すること、市内で課題となっている「空き家対策」と連動させて使える場所を確保する、などのアイデアが出された。
- 外出の場所としては、魅力的な公園の整備、
- ジョギングができる街路づくり、親子でテニスができるテニスコート、親子やシニアのための家庭菜園など、身近な場所に魅力的な場所が色々あるとよい、という意見が出された。
- 親子が手をつないで安心して歩ける歩道や治安の向上など、まちの環境向上についての意見も出た。
- 親子で外出する交通手段についての議論も活発に行われた。とりわけコミュニティバスに対する期待が大きく、外出の手段として有効に活用するためには、増便やPRの充実が必要と指摘された。
- コミュニティバスを有効活用するために、スクールバスとしての利用、子どもだけでも安心して乗れるように見守りボランティアの配置、イベント時の臨時バスの運行、わかりやすい停留所の整備などのアイデアが出された。
- このようなアイデアを実現するために、コミュニティバスの使い方を市民が考え、提案できるような検討の場が必要とのアイデアが出された。

課題（論点・個別意見）	解決アイデア（短冊・個別意見）
<p>1</p> <p>親子で文化に親しめる環境をつくること が必要（●3人、○1人） （意見ポストイット）</p> <ul style="list-style-type: none"> 大和市出身のアーティストの作品を置ける小さな美術館がほしい 図書館を増やしてほしい 芸術活動、文化面の充実を図ってほしい クラシック音楽が楽しめるようにしたい 	<p>音楽、文学（図書館）、美術に子どもの頃から接する機会を増やしていくために、その分野で活動している人をしっかり支援できる枠組みをつくらう（シール投票数5票）</p> <ul style="list-style-type: none"> 少なくとも良いので文化活動費の支援が得られるようにする 大和駅の文化創造拠点に期待している
<p>2</p> <p>外出したいと思える場所やイベントの 充実が必要（●1人） （意見ポストイット）</p> <ul style="list-style-type: none"> 人気者のイベントを開ける場所 若者が立ち寄れる街づくり。例えば南町田のような 	<p>大規模な商業施設、公園、空き家、公共施設のロビーなどを活用し、普段の生活で気軽に文化にふれることができるイベント・音楽会などを開催しよう（シール投票数5票）</p> <ul style="list-style-type: none"> 歩道橋や駐車場でコンサートをやってもよい 空き家対策と組み合わせる

	<p>アウトレット、大型ホールなどをつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外出しなくなる場所がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが参加しやすい音楽会を開催する ・第九の合唱など参加型の音楽会を行う ・生活に根差した小さな音楽会を行う ・気軽に活動できる場所を確保する ・大きな箱物をつくるのではなく身近なところに活動の場所を確保する ・キャラクター（ヤマトン）を活用する
3	<p>情報の発信が少ない 〔意見ポストイット〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・せっかく良いイベントがあっても知らない人が多い 	
4	<p>集まれる場所があるとよい 〔意見ポストイット〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気軽に集まれる場所が数多くある街 ・お金のかからないレクリエーション（バーベキューなど）ができる場所の充実 ・空き家対策にも効果的 	
5	<p>外で楽しめる場所が少ない（○3人） 〔意見ポストイット〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子でジョギングができる整備された街 ・ジョギングやお花見が楽しめる ・公園を魅力的にする ・テニスコートが少ない ・ボール遊びをできるところが少ない ・土地を有効に使って親子やシニアの家庭農園をつくる 	
8	<p>まちの環境を向上させたい（●1人、○1人） 〔意見ポストイット〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子が手をつないで横に並んで歩ける電柱のない街 ・治安が悪い 	
9	<p>移動の手段としてのコミュニティバスを充実させる（○4人） 〔意見ポストイット〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バスの本数を増やしてほしい ・使いやすいコミュニティバスが走っている街 ・コミュニティバスが少ない、情報が少ない ・電車のないエリアの交通（バス）が不便 ・コミュニティバスを使いやすくする ・終バスが早すぎる ・コミュニティバスで行けるルートが分かりにくい ・ベビーカーでも使いやすいコミュニティバスにしてほしい 	<p>コミュニティバスの活用目的を広げよう。子どもだけでも安心して乗れる見守りボランティア、子連れで安心して乗れるイベントバスの運行など、使い方を市民が提案できる“場”をつくらう（シール投票数7票）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子もみんなも使えるバスにする ・スクールバスのように使う ・お試し券を配ってまずは乗ってもらう ・子どもだけでも安心して乗れる（塾に行くなど）ように見守りボランティアをお願いする ・イベントバスを運行する。子ども連れでも駐車の手配をしなくてすむ。 ・わかりやすい停留所を整備する ・市民が使い方を提案する場をつくる

●作業シート

④ 親子で外出

G4-1 音楽、文学(図書館)、美術に子どもの頃から接する機会を増やしていく。そのために、活動している人を、しっかり支援できる仕組みをつくる。(少くとも川井お金蔵) (場所確保→提案2A)

G4-2 イベント、静会などができる、生活に根ざした身近な場所を確保する。例えば、イオンやカ堂などの商業施設、公園、空き家活用、公共施設のPC。その生活で気軽に文化に触れられる。

G4-3 コミュニバスの活用目的を広げよう。対象を広げるために、おためし券を配る。子どもだけでも安心して乗れる(見守りボウリング?)

子どもが安心してイベント、この使い方を市民が提案する"場"をつくる。

④ 親子で外出したくなるまち

■グループ5 仕事と子育ての両立

●議論の流れ

- ・ 仕事と子育ての両立を考えるうえでの重要な論点として、「子どもを安心して預けられる環境づくり」があげられた。フルタイムで働く親や子どもが急病にかかった時など、様々なニーズにあわせて預けられる対応が求められている。仕事と子育てのバランスを図るうえで、様々な選択肢を与えられる企業を市が誘致、または指導していくことや、企業の空き部屋を子育てスペースに開放すること、子どもの急病に備えて病院と企業を提携させることなど、企業側が担うべきアイデアが解決策として多くのアイデアが出された。
- ・ 障がい児を育てながらフルタイムで働く親にとって働きやすい環境が整っていない点も指摘された。養護学校が市内になく通学が大変であることや、放課後に子どもを預けられないという問題もあげられた。市の財政状況からハード面の更なる整備は難しいという現状をふまえ、民間の学童や保育施設で障がい児を率先して受け入れられるような支援や仕組みづくりを充実させることが提案された。
- ・ 治安の悪さや通学が不便であることから、安心して子どもを預けて働けないという課題に対しては、学校の前に停留所を設置してコミュニティバスを通学に活用することや、コミュニティバスに地域の見守り機能を付加するなどのアイデアが出された。
- ・ 子育てと仕事の両立を考えるうえで、「地域とのつながり」を深めることが最も重要であるという意見が多く、シルバー世代をはじめとした方々にできる範囲で支援してもらうことや、市で行っているファミリーサポートセンターへの登録数を増やしていくことが求められた。
- ・ 子育てに関する情報が行き届いていないという課題もあげられ、市が行っている子育て支援をより効果的に進めるため、既存の情報発信媒体を伝えたい対象者を明確にしたわかりやすい構成に見直すことや、新たに SNS やメールマガジン等、受動的に情報を得ることができるツールを活用、直接会わなくても専門家に子育ての相談ができる掲示板を開設するといったアイデアが提案された。

課題（論点・個別意見）	解決アイデア（短冊・個別意見）
<p>1</p> <p>中学以降、放課後に子どもを預けるための支援がないため、仕事を続けられない</p> <p>（意見ポストイット）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学以降の放課後支援がない ・ 小学校までの学童しかなく、仕事を辞めざるをえない 	
<p>2</p> <p>放課後に障がい児を預ける場所や制度が足りない（◎1人）</p> <p>（意見ポストイット）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 就労中に障がい児を預けられる場や制度が足りない ・ 放課後に預けられる学童は年齢順になっており、障がい児の優先順位が低い 	<p>民間の学童や保育施設で障がい児を受け入れられるような支援と仕組みづくりをしよう（シール投票数2票）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ フルタイムで働いている障がい児の親への支援を充実させることが必要

3	<p>地域の学校の支援級でも養護学校並みの水準になると良い</p> <p>(意見ポストイット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援級をもっとスキルアップさせて欲しい ・支援級の教育や職員の質を上げるべき 	
4	<p>養護学校が大和市にないため、学校への通学が大変 (●1人)</p> <p>(意見ポストイット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市外の養護学校への通学が大変 	<p>安心して子どもを登下校させるために、学校の前に停留所を設置することや、コミュニティバスによる地域の見守りを行うなどを進めよう (シール投票数2票)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティバスの応用と充実を検討する ・治安が悪いので、小学校の通学に使えるようにする
5	<p>治安が悪くて子どもを残して働きに行くのが心配 (○2人)</p> <p>(意見ポストイット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・治安が不安、特に下校の時 ・「鍵っ子」を残して働きに行くのは不安 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティバスに監視カメラを設置することで、見守りの役割を担えるようにする
6	<p>地域とのつながりをより深めることが大切 (●1人、○1人)</p> <p>(意見ポストイット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域とのつながりを持てる手段が少ない ・特に、災害時等は地域の人々が頼りになる ・働きながら子育てをするには、地域の人に助けをもらう必要がある 	<p>地域とのつながりを深めることで、シルバー世代にできることから支援してもらい、仕事と子育てを両立できる体制をつくらう (シール投票数0票)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シルバー世代など、時間のある人に手伝ってもらう ・できることをできる時間に負担なく手伝ってもらい、敷居を下げる ・子どもの登下校時の旗振りなど、簡単なことからはじめられるようにする
7	<p>ファミリーサポートセンターなど、市の取り組みの情報が届かない (○1人)</p> <p>(意見ポストイット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報が足りない 	<p>ファミリーサポートセンターにシルバー世代が気軽に登録できるよう、PRの改善と登録への心のバリアを外せる仕組みをつくらう (シール投票数10票)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファミリーサポートセンターの登録者は若い人が多いため、シルバー世代が参加できるようになると良い ・実際にやってみたいと考えている人も多いので、参加への敷居を下げるのが大切 ・人の子どもを預かることに責任を感じる人も多いと思われるので、登録しやすくするため ・ファミリーサポートセンターの登録数を増やすために、PRに注力する <p>必要な情報を届けるために、既存の情報誌は子育て世帯に親しみやすく、見やすく改善し、SNSやメールマガジンで配信して携帯電話などで取得できるようにしよう (シール投票数0票)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報発信は携帯電話で見られるように、SNSの活用やメールマガジンなどを検討する ・メールや掲示板で専門家に相談できる仕組みがあると良い ・市の既存の広報紙などの情報媒体が見つからないため改善する(文字が多く詰まりすぎている、世代に合わせた紙面になっていない、情報が欲しい対象者に合わせた紙面とする)

8	<p>子どもを預けられる場所を増やし充実させることが大切（○1人） （意見ポストイット） ・家や職場の近くなど、保育施設の充実</p>	<p>仕事中に子どもを預けられるように、「子どもの急病に備えて病院と企業が提携」「企業の空き部屋や会議室を子育てスペースとして開放」「緩く働ける企業を誘致」させよう（シール投票数4票）</p>
9	<p>子どもが病気の時に仕事を抜けられないことが心配（○1人） （意見ポストイット） ・子どもの急病等、緊急時の送迎など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの急病に備え、勤務先に医療施設を設ける ・病院と企業を連携させる ・勤務先の空き部屋や普段使われていないスペースを子育てスペースとして開放する ・緩く働ける企業を誘致する
10	<p>企業内に子どもを預けられる場所を設置するなど、企業の協力が必要（○2人） （意見ポストイット） ・企業の協力が少ない ・勤務先に育児施設や子どもの寝室、または入浴所が少ない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・お父さんも育児休暇が取得できる環境を整える
11	<p>仕事と子育てのバランスの面から女性の働き方の選択肢が少ない（○1人） （意見ポストイット） ・子どもの成長を常時見届けられない ・女性の働き方の多様性が少ない</p>	

●作業シート

2階

5 地域とのつながりを深めて子育てと仕事を両立できる体制づくり
 ■地域の多世代を活用 ■ほじの課題を解決する ■できる限り負担なく推進できる

ファミリーサポートセンターにシルバー世代が気軽に登録できる。
 登録数増加のためにPRイベントで外資系企業に働きかけよう

仕事中心の子育て預けられるように、ゆとり雇用企業、の誘致、実習屋を創設、病院と企業の連携、互恵的

民間の学童や保育施設で障がい児を受け入れられるよう
 市が「人・モノ・カネ」と仕組みの支援をしよう

安心して子育ての登録校を認めるために、ITシステムを充実させよう ■学校前併設保育所 ■見守りカメラなど

必要な情報を届けるために、既存の情報誌は子育て世帯に見直し改善、SNSやメール発信などに見直しをしよう

2階

6 子育て支援

6階子育て ①

6階子育て ② 子育て支援

6階子育て ③

6階子育て ④ 子育て支援

6階子育て ⑤ 子育て支援

6階子育て ⑥ 地域

6階子育て ⑦

青森北 女性の
小島北 経路
佐藤北
山崎北
金原北

保育所の充実
働きやすい環境

長期間労働
⇕
賃金
(家計に合わせた)
専業主婦に
家庭に支出
支援体制

5 仕事と子育ての両立 ③

仕事と子育ての両立

中学校へ行く

仕事復帰の準備

企業の中で働く

地域のつながり

ファミリーサポート

通学大変

放課後児童クラブ

企業の中で働く

地域のつながり

ファミリーサポート

仕事と子育ての両立

中学校へ行く

仕事復帰の準備

企業の中で働く

地域のつながり

ファミリーサポート

通学大変

放課後児童クラブ

企業の中で働く

地域のつながり

ファミリーサポート

■グループ6 仕事と子育ての両立

●議論の流れ

- ・「仕事と子育ての両立」というテーマは、親の就労環境への支援という側面も大きいですが、本質的には子どもの成長や幸せのためにも必要であるという議論が行われた。特に幼少期の子どもにとって親とのコミュニケーションの時間は大切であり、そのためにはワークライフバランスが必要である。
- ・子育てと仕事の両立が難しい要因として、参加者の意見が集中したのは、経済的な理由から長時間働かなければならないという点であった。しかし、意見交換を続けていくと長時間労働の問題には、解決するための糸口も見えてきた。例えば、ある会社では就業時間を1時間短くしたが、成果は変わらなかったという事例があった。限られた時間で成果を出せるように職場内で意見交換の場を設けてアイデアを出し、工夫して取り組むことが重要である。子育てへの会社の理解やサポート、個々人の時間のコントロールにより、残業をしなくてもまわせる会社経営を目指すことが大切との意見があった。
- ・子どもと過ごす時間の確保が必要な一方、女性の社会復帰のためのサポートも必要との意見が出た。保育所のポイント制がフルタイム就労に有利なため、働くならフルタイムでないと保育所に預けられないという状況になっていることが課題としてあげられた。子どもの成長に合わせて徐々に働く時間を増やせたり、地域で働ける環境があるなど段階的に就労復帰できたりする仕組みづくりが求められている。
- ・また保育所の充実に対するニーズも高かった。職場に保育所があると良いのではないかという意見が出た。
- ・保育所や幼稚園は担当省庁が異なるため方針が違うことが、子どもにとって良いことではないという意見が出された。認定こども園のような共通の考え方の中で、ライフスタイルに合わせて預け先を選択できれば良いという意見が出た。
- ・最後に専門家のサポートの必要性も議論された。はじめての子育てでは、分からないことや悩むことも多い。そんなとき、専門家に気軽に相談し、アドバイスを貰えたら良いという意見が出た。子育て家庭を専門家が訪問、また保育実習生がサポートする仕組みができると良いというアイデアが出た。

課題（論点・個別意見）	解決アイデア（短冊・個別意見）
<p>1</p> <p>子育ては一代事業、子どもの成長を見守る視点が大切（○1人）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの成長の視点からの支援策がみえない ・子育ても仕事なのです。一代事業なのです 	<p>子育て家庭に専門家が出向き相談できる仕組みや、保育の実習生が子育てをサポートしてくれる仕組みをつくる（シール投票数1票）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助成金も制度を知らないともらえないので、専門家に相談できる機会があると良い ・学生さんは社会の資本。保育の実習生が子育てをサポートできる仕組みができると良い <p>子どものために、保育所、幼稚園までは、同じ考え方で保育・教育をするべき（シール投票数0票）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認定こども園の制度は良いと思う。5才までは子どもにとって、とても大事な時期なので、区分するのは良くない

2	<p>仕事に専念しすぎて長時間労働となり、子どもとの時間が少なくなっていることが課題 (●1人 ○3人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事に専念しすぎて子どもとの時間が少なくなる ・両親の長時間労働の現実 	<ul style="list-style-type: none"> ・短時間でも仕事の成果を出し、残業をしなくても仕事をまわせる会社経営ができれば良い ・生産性をあげるため職場での意見交換やアイデア出しも有効 ・限られた収入や時間をうまくコントロールし、やりくりしていけるとよい
3	<p>経済的保障がないと働く時間が長くなる (●3人 ○2人)</p> <p>(意見ポストイット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どちらかが子どもと関わりを十分に持てる為の経済的保障 	<p>行政の子育てに関する経済的保障は、必要としている子育て家庭に行う (シール投票数0票)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長時間労働と経済力は、表裏の関係。働かなければならない経済的理由がある
4	<p>シングルの親への支援策が必要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シングルの親の支援策 	
5	<p>女性の就労復帰への段階的取り組みの検討が必要 (○1人)</p> <p>(意見ポストイット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働く女性の就労への段階的取り組み 	<p>子育て中の女性の段階的な就労復帰のための環境を整える(保育園のポイント制も課題。3才までの子どもにとって親との時間は特に大切なので、成長に合わせて就労時間を徐々に増やしていけると良い) (シール投票数4票)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育園のポイント制がフルタイムで働いている人に有利になっていることも段階的就労の障壁になっている ・特に3才までの子どもにとって、親とのコミュニケーションは大切
6	<p>身近な保育所の充実や働きやすい環境づくりが大切</p> <p>(意見ポストイット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働きたくても保育所が少なくて働けない ・保育所などの場所や預かり時間の充実 	<p>会社の中に保育所ができるように行政も支援する(会社の中にあると時間を効率的に使える。子どもに何かあったときもすぐに行ける) (シール投票6票)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場の子育てへの理解や参加が大切 ・企業が保育所を設けるとメリットになるような行政の側面的支援も必要 ・中小企業はどうやって保育環境を確保するかという課題もある
7	<p>男性の子育てへの参加が課題 (○1人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男性も子育てを一緒にできる社会に 	
8	<p>職場や地域の子育てへの参加が大切 (●1人、○2人)</p> <p>(意見ポストイット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場・地域での子育てへの参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育ての共助をテーマにしたシェアハウスをつくる <p>地域で支える、支え合う関係をIT技術も活用して実現する(子育てアイディアソン、ハッカソンの実施) (シール投票数3票)</p>

●作業シート

6 グループ③ 仕事と子育ての両立

6グループ 行政による子育て家庭への経済的保障が (但し、本当に必要に応じて) 必要。

6グループ 子育て中の女性の段階的な就労環境を整える (保育所の枠外性 課題) (3才までの子どもについて 親のコミュニケーションが大切)

6グループ 会社の中に保育所が出来ると 行政も支援 (時間的 効果的) (子ども向け 合わせたサービス)

6グループ 保育園、幼稚園、5才までは 子どもたちに同じ考え方で教育・支援を行う

6グループ 子育て家庭に専門家が向き相談できる、 実習性が子育てをサポートしてくれる環境づくり

6グループ 地域で支える、支え合う関係づくり (子育て ハッカソン) (IT技術も活用して実現)

6 グループ 仕事と子育ての両立



Fix my street

・保母福祉センター
・生涯学習センター
子どもと一緒に楽しむ。

■グループ7 子育ての不安を解消するには

●議論の流れ

- ・ 子育ての不安を解消するうえで、母親にとって、友達や仲間づくり、ちょっとした相談ができる相手がいること、話を少しでも聞いてもらえる機会があること、働いていなくても子どもを預けられる先があることなどが重要であるとの意見が出た。子育て支援センターは、利用者に評判がよいが、頻繁に通うには、このような施設が市内にまんべんなく必要という意見が多く出された。空きビルなども散見されるので、そういった既存施設を利用したり、民間商業施設の中へ子育て支援センターを導入したり、大和駅の文化創造拠点に設置するなどのアイデアが提案された。
- ・ 共働き家庭では、仕事を休みにくいことが親への負担増につながっているという点も指摘された。社会全体の意識改革を進めるとともに、子育てに優しい企業の表彰などを市が積極的に行い、子育て優良企業を誘致すべきとの意見が出された。
- ・ また、急な発熱やアレルギーを持つ子どもを受け入れられる病院と病児保育が不足している点も指摘された。これについては、病院情報や病気に関する情報などを充実してほしいという意見が出された。
- ・ 子育てを支える「まちのインフラ」に関しては、道が狭いため自転車と歩行者の接触が心配である、ベビーカーや子どもを連れて安全に通行できない道が多い、などの意見が出され、解決策として自転車専用道路の整備などの提案が出された。子どもの遊び場である公園の衛生面などの管理が不安であること、公園の遊具が壊れたままであること、公園での禁止事項が多くて遊びにくいことなども指摘された。また、通学路に街灯がなくて暗いこと、林が多くて不審者がいないか心配だという意見が出された。子どもが外で生き生きと遊べる公園、安全に外出したり通学したりできる道づくりや防犯を意識したまちづくりを望む声が多く聞かれた。
- ・ まちづくりに関しては、若い世代が子育てしたくなるような近代的で機能的なまちにしていくこと、他都市にアピールできるまちづくりを行うことが提案された。これに関しては、老朽化した道路、駅、まち全体を新しい技術とデザインを導入してリニューアルするとともに、「子育て特区」を設けて子育てを支援する保育所、住宅、公園を駅に整備する、子育て世代向け「経済支援住宅」が提案された。
- ・ 子どもの学力の低下が報じられ、将来にわたって子育てをしていくうえでの不安要素となっているという意見も根強い。地域住民で勉強を教える寺子屋のような活動が広がっていくことも重要だとの意見も出た。また、文化的な催しが生涯学習センター等で企画されているが開催数が少ないので、そういった機会を増やし、子どもに学びや文化に興味を持つきっかけを与えることが重要ではないかという意見が出た。経済的な格差により学ぶ機会に不平等が生じないように、民間企業の協力を得て低価格なプログラムを増やし、そこに市が補助を行うことで魅力的かつ低価格なプログラムが実現できるのではないかと提案が出された。

課題（論点・個別意見）	解決アイデア（短冊・個別意見）
<p>1</p> <p>子育て支援センター（桜ヶ丘）のような仲間づくりや相談、交流できる場所が不足している（●3人、○1人）</p> <p>（意見・ポストイット）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援センターが1カ所しかない ・頻繁に通える場所に必要 ・友達づくりができる ・相談や、ちょっとしたことを聞いてくれる ・親以外の遊び相手がいる ・異年齢の子ども同士が遊べる環境がある 	<p>子育て特区として駅の近くに保育施設、子育て世帯用住宅、公園、病院施設等のあるまちをつくらう（シール投票数1票）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他都市にアピールできるまちにする <p>既存施設や空きビルなどを活用して「こどもーる」をたくさんつくらう（シール投票数5票）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「こどもーる」を増やす ・空きビルなどを活用する ・大和駅の文化創造拠点の中につくる
<p>2</p> <p>仕事を休みにくいため、祖父母への負担が大きくなる（○2人）</p> <p>（意見ポストイット）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・育児休暇、時間短縮を言い出しにくい ・親（祖父母）への負担も大きい 	<p>優良企業の表彰など、子育てに優しい企業を大和市が応援しよう（シール投票数3票）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優良企業を表彰する ・民間企業にメリットを与えて再開発に参加をうながす
<p>3</p> <p>病児保育やアレルギーに対応できる病院がない（○3人）</p> <p>（意見ポストイット）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アレルギーの専門医がない ・病気やアレルギーなどの情報提供も少ない 	
<p>4</p> <p>子どもの学力が低下していることが教育面で不安に感じる（●1人）</p> <p>（意見ポストイット）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学びのきっかけとなる機会が少ないのでは？ ・文化的な催しに触れる機会がもっとほしい 	<p>低価格で参加できて、子どもに学びのきっかけを与える文化プログラムやイベントを増やすため、民間組織の活動を市が支援しよう（シール投票数2票）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民間企業に委託して魅力的なプログラムを増やす ・親も子どもと一緒に楽しめるものにする ・低価格に抑えられるよう行政が補助などを行う
<p>5</p> <p>保育所だけでなく幼稚園も不足している（○1人）</p> <p>（意見ポストイット）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（働いていなくても）誰かに預けられる場所 ・保育園、幼稚園の拡充 	
<p>6</p> <p>公園の遊具が古い、道が狭くて危ない、街路灯が少ないなど、まち全体のインフラが悪い（●1人、○3人）</p> <p>（意見ポストイット）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道やまち全体が古くてぱっとしない ・通学路の道が狭い、車通りが多い ・自転車通学の人と小学生、園児がぶつかりそうでこわい 	<p>まちのインフラを近代化しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・街灯を増やす ・公園を整備するなど、魅力をアップさせる ・自転車道路を整備する

	<ul style="list-style-type: none">・自転車道路の整備が必要・公園の遊具が古い、水や砂場の衛生面が不安・公園のトイレも汚い	
7	街路灯が少なく林なども多い場所では不審者が多く治安が悪い (意見ポストイット) <ul style="list-style-type: none">・街灯がなくて暗く林が多いので不安・不審者が多い	

●作業シート

⑦ テマ④ 子育ての不安

① 駅の近くに子育て特区のまちをつくる

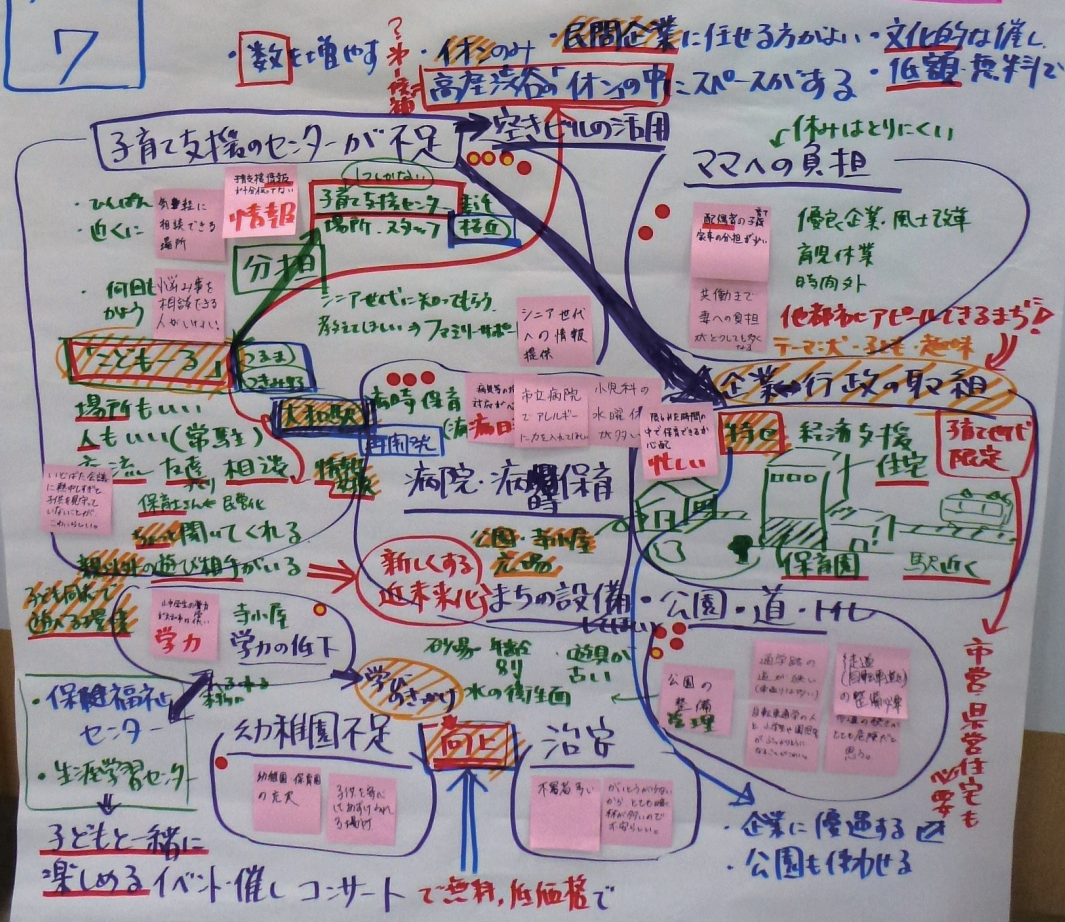
② 既存の施設で「こども」をつくる

③ 子どもに学びのきっかけを与えるイベント催しを増やす

④ 子育てに優しい企業を大和市が応援する

テーマ4: 子育ての不安を解消するには

グループ 7



■グループ8 子育ての不安を解消するには

●議論の流れ

- ・「産前」の対策としては、子どもが欲しくても経済的に働き続けなければならない人もいれば、子育てよりも現在の仕事を楽しまたいと思っている人もいますので前者のケースに対して、支援を行うことが必要だと指摘された。核家族化が進むことで、家事や子育てを少ない人数で担わなければいけなくなっているが、サザエさんのように家族が拡大していけば、そうした負担も減るといったアイデアが出された。あわせて税制などを見直すべきとといった意見も出された。
- ・「出産後」の対策としては、親にとってはじめて接する子どもが我が子というケースが最近多いため、赤ちゃんとのスキンシップの取り方が分からない方に対するサポートが必要とされた。先輩ママから手遊びやわらべ歌を教えてもらう機会を気軽にもてると良いというアイデアが出された。また、学習センターを用途・利用者別に区分するのではなく、さまざまな人が自由に出入りできるようにして、新聞を読みに来る人や高校生なども気軽に子ども達とふれあえるようにするというアイデアが出された。
- ・子どもが「乳児期」の時の課題としては、仕事を辞めることで収入がなくなることへの金銭的な不安があげられた。また、子どもが周りに迷惑をかけていないか、周りの目が常になくなってしまおうという不安があり、そうした不安

に対しては、日頃から親子連れの方に周囲の人がニッコリ笑いかけることで、不安が解消されるのではというアイデアが出された。しかし、小さい子どもに話しかけることで親に怪訝な顔をされることがあり、躊躇してしまうという意見もあり、「ニッコリ運動」として市広報などで呼びかけて、みんなで取組みやすくするムーブメントをつくることが提案された。

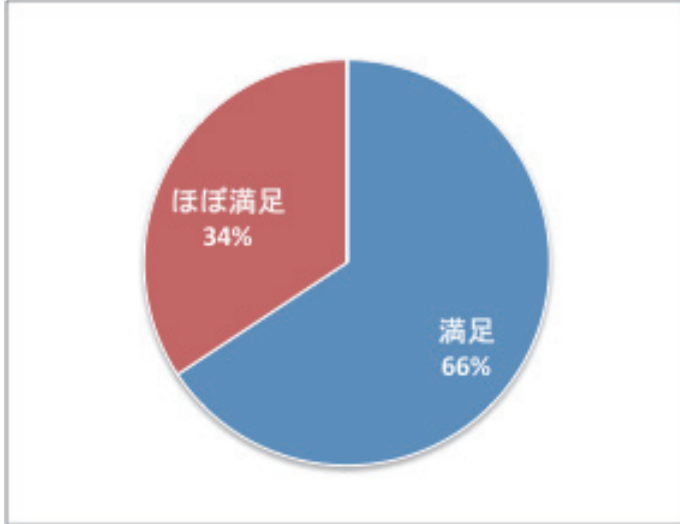
- ・「学齢期」では、ゆとり教育によって土曜日が休日になっても、両親が働いているために結局親子でコミュニケーションをとる時間がとれないといった課題や、子どもの心の問題へのケアが十分できているか不安といった意見が出された。親が日中家にいる人にとっては当たり前でも、両親が働いている家庭にとっては、親がいるということはとてもありがたいという意見も出され、いてほしいときに親がいることができる状況（就労形態など）をつくることや身近に頼れる人がいることが重要だとされた。
- ・子どもの年齢に関係なく、不審者対策に対しての意見が出され、街灯（防犯灯）の整備や、地域の男性（シルバー世代を中心に）が見守りをするというアイデアが出された。その他、自転車専用レーンをつくることは、子育て中の自転車利用者にとっても安心できる要素になるとの意見があった。

課題（論点・個別意見）	解決アイデア（短冊・個別意見）
<p>1 親は周りに対する不安でいっぱい、常に周りに気をしてしまう（◎2人、○1人） （意見ポストイット）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事はやめないとダメなのか ・周りの目が気になる ・子育てにはお金がかかる 	<p>周りの人にニッコリされるだけで子どものいる親御さんは救われるので、みんなでニッコリ運動を始めよう（シール投票数11）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニッコリ運動というかたちで、みんなで始めることによって、子どもに話しかけると親に嫌がられるのではという不安も払拭される ・ニッコリされたり、ひと声かけられるだけで親はホッとする

2	<p>日頃赤ちゃんと接する機会がなく、はじめて接するのが自分の子で、子どもの面倒の見方が分からない人が多い (●1人) (意見ポストイット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・赤ちゃんとスキンシップ、遊び方がわからない 	<p>学習センターを多目的活用し、新聞を読む人、勉強する人、親子連れなど、世代を超えて出会う機会をつくらう (シール投票数2票)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞を読みに来る人が子どもの面倒をみる。高校生、大学生も ・高齢の方を守る存在にしない ・子育て支援センターを気軽に行ける規模で各駅に設置する
3	<p>親子のコミュニケーションがとれなくなっている (○3人) (意見ポストイット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・頼れる人がいない ・ゆとり教育によって土曜日が学校休業日になっても、親子のコミュニケーションがとれていない ・教育 (特に心の問題、しつけ等) への不安 ・いつも親が家にいることが当たり前だと思ってしまうが、働いている家庭にとっては、家に親がいることはありがたいと思える 	<ul style="list-style-type: none"> ・親以外に頼れる人がいるとよい
4	<p>通学路に不審者情報が多く、夜も道が暗いため毎日心配 (●4人) (意見ポストイット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不審者が多く出ることがあり、治安が悪い印象がある ・街灯が少なく夜が怖い ・夜道の帰りが不安 ・自転車の通学で自動車と距離が近く事故になりそう 	<p>不審者防止のために、街灯の増設等を高校生徒会から地域に掛け合うとともに、3匹のおっさん (地域のシルバー世代の男性を中心とした見守り隊) の取組みを始めよう (シール投票数1票)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会から自治会に防犯活動への協力を掛け合う <p>若い人の意見を聞く場を続けて、多様な世代の意見交換を大切にしよう (シール投票数7票)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の討議会は自分たちが日頃心配に思っていることをいえてよかった ・生徒会としては、不審者の課題はあっても、どこに掛け合っているのか分からなかったので、今日のような場で知ることができてよかった
5	<p>子どもがほしくないと考えている人に出産・育児を考えてもらいたい (●1人) (意見ポストイット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもがほしくない。仕事の関係であきらめている人がいる ・仕事が不規則で育てられない人がいる ・共働きでないと生活できないケースがある ・仕事が忙しいのは言い訳で、自分の仕事が楽しいのでそちらを優先したい場合がある 	<p>核家族では、家事や経済的負担が大きくなってしまいうため、家族を拡大化し、子育てしやすい・出産しやすい環境をつくらう (シール投票数2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多世代が暮らすことで、子育ての負担を減らし、自分の子ども以外の小さい子どもと接する機会をつくる ・同居することで、家賃などの経済的な負担を減らす ・必ずしも血縁だけでなく、シェアハウスのような住まい方も互いが助け合うという点では、よいのではないだろうか
6	<p>働こうと思っても、子どもの預け先がない (意見ポストイット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの預け先をどうしようか悩む ・認可になって定員が減ってしまった 	

3. 参加者アンケートのまとめ

Q.本日の市民討議会はいかがでしたか？（満足・ほぼ満足・普通・やや不満・不満）



満足	23
ほぼ満足	12
普通	0
やや不満	0
不満	0
計	35

●具体的な回答

○いろいろな世代の人の意見を聞く事ができた

- ・ 各年齢層の考えを聞く事ができた。
- ・ いろんな人の考え方を聞いた。
- ・ 大和市に引っ越して年数が少なく、よく地域のことを知りたかったので、いろいろな方の意見がきけて話し合えてたのしかった。
- ・ 市の子育て支援について知ることができ、いろいろな世代の人の話を聞くことができて良かった。
- ・ 色々な年代の意見が聞けておもしろかった。
- ・ 子育て世代同士だと同じような意見ばかり出るが、色々な世代で話し合う事で、新鮮な意見が出た。
- ・ 様々な年令や立場の方々と話ができて、とても参考になりました。
- ・ 学生さんやリタイア世代の方など、様々な方の意見を聞くことができ、子育て世代だけでは出てこなかった意見やアイデアを学ぶことができました。
- ・ いろいろな世代の人の意見をたくさんきくことができた。
- ・ 色々な意見が聞けて、将来保育者を目指すものとして、ためになるものもあって、すごく充実していました。
- ・ 他の方の意見も聞けたのでよかった。
- ・ 世代をこえた意見が聞けてよかった。
- ・ 今までまじめに自分の住んでいる町について考えたことがなかったため、同じ町にすんでいる人達と交流できてよかった。
- ・ 多くの方の色々な考えが聞けた事。
- ・ 異なる世代のみなさんと様々な意見が交わって、今まで自身の視野になかったものも見えてきて大変

勉強になりました。

- ・ いろいろな意見を聞き、自分の中の整理もでき、よい機会となりました。

○このような話し合いの場に参加できて良かった、充実した時間だった

- ・ 市民討議会に参加できました事に感謝致します。
- ・ 初めての経験であり、緊張したが、再度参加したい。
- ・ このような機会を与えてくださり、ありがとうございました。充実した時間でした。また、機会があれば参加したいです。
- ・ 討議会に初参加で知る事が多かった。
- ・ 当初は緊張気味のまま参加し、中々アイデアが出せませんでした。が、次回の参加で、これまでの反省を生かそうと思っています。
- ・ 自分の意見が届いたような感じがした。
- ・ 普段日頃言えない事が言える場所でいっぱい言うことが出来たから満足。
- ・ 大変濃い、充実した時間でした。ありがとうございました。また、参加したいです。

○高校生の参加、意見が良かった

- ・ 高校生が参加したこと。
- ・ 高校生の参加が本当に良かった。しっかりとした考えをもち、順序だてて話す。
- ・ これからの高校生活にも役に立つ良い機会になりました。
- ・ 学校にも役立てることができると思ったから。
- ・ 高校生の意見も取り入れてくれたのがよかった。

○コーディネーターがいることで進行がうまく進んだ

- ・ コーディネーターがうまく進行をリードしてくれたこと。
- ・ コーディネーターが上手で意見がよく出たと思う。やはりプロだと思いました。

○子育てを取り巻く状況について知ることができた

- ・ 普段、子供と接することがないので、今の子育て状況などわかり、よかったです。あと自分の経験が再度考えなおせて良かった。

○グループ討議には市の職員も参加して欲しかった

- ・ グループの指導をする人は市内の地理に詳しいので大和市の職員にして欲しかった。
- ・ 意見交換、発表の場としては良かったが、本当に行政に浸透していくか不安。市の職員、広報のカメラを回しているだけでなく、せっかくの意見聞き漏らさないように討論に参加すべき。発表のメモすらとってない態度におどろきです。

○グループ分けや進行に関してもっと工夫してほしかった

- ・ 思ったより深く討議ができたが、プレゼンの時間が短く伝えきれなかった。
- ・ グループ分けの中で1回目のばらつき（人数）が見られた、年齢層の平均化を望む。

Q.市民討議会での他のグループの発表をふまえ、追加したいアイデアや話し足りないことがございましたらお書きください。

●子どもが生き生きと遊べるまち

- ・ 昔のように近所の人達みんなが子どもたちを見守らないといけない。
- ・ たてのつながり。
- ・ あいさつ運動。
- ・ あいさつがいいと思った。
- ・ タバコ禁止。
- ・ 歩きタバコ、取り締まり不足、法の意味なし。
- ・ 「ケガをしてもいいから」 くらいの考え方で冒険できる遊び場があったらいいと思いました。
- ・ 携帯して歩けるゲーム機やスマホのゲームの遊び方は親世代も含めて、注意をしていく事も大事かと思えます。

●親子で外出したくなるまち

- ・ 遠くまで出かけなくても近くにでかけられる場所が増えると良い。
- ・ 外出する手段の整備を希望します。
- ・ 道の改善。

●仕事と子育ての両立

- ・ 企業の理解が必要。
- ・ 子どもを持って働く母親だけでなく、父親にも企業側が退社時間などの考慮を働きかけて欲しいです。
- ・ 会社へ勤務しながら、子供を育児及び、医療の複合施設へ預ける。
- ・ 障がい児を育てつつフルタイムで働けるようにぜひお願いします。

●子育ての不安を解消するには

- ・ 気軽に相談できるところが必要。
- ・ 各人、不安の内容も異なるので、それらに対応できる相談所があるといい。
- ・ 各家庭に、専門家が訪問する方法をもっと取り入れてあげて欲しいです。
- ・ カウンセラーの設置。
- ・ 親子のコミュニケーション、スキンシップがわからない、というママへ、ぜひベビーマッサージを伝えていただきたいです。プレママ、プレパパ学級や育児学級などで、取り入れてもらいたいです。ベビーマッサージ講師として育児サークルなどを開催しているので、ボランティアでかまわないのでやらせて下さい！
- ・ 幼稚園や保育園の助成金等をもっと出して、安心して子どもが産めるように。

●その他

- ・ すべて大人親たちの問題につながっていると思う

- ・スポーツ環境を整備するには。
- ・大和に住んで、子育てができる、魅力的な場所にしていきたいと思いますが、それにはカップルをつくることも大切。そのような機会をもうけていただける場もあればと思います。
- ・近所つきあいが少ないので町や市であいさつ運動をしていくとすごしやすいところになると思う。
- ・広報やまとをメール配信してほしい。
- ・大和市をよりよい市にするべくローカル・アイドルやローカル・ヒーローを誕生させたい。
- ・子育て世代限定の集合住宅を駅の近くに保育所併設で建設すると若年世代に役立つと思う。
- ・子育て支援センターの発進力が弱い。駅の近くに移しては？
- ・シニア世代の活用に対し「シニアの人達が具体的に出来ることへと次につなげていくために」・・・を取りあげる。

Q.今回が2回目となるやまと市民討議会でしたが、このような取り組みへのご意見や、より参加しやすくなるための工夫・アイデアなどお気づきの点がございましたらお書きください。

○このような場に参加できてよかった、良い経験になった

- ・お手紙をいただいて、このような会があることを知りました。呼びかけのしかたの工夫がみられました。
- ・今回選ばれた事がとても光栄でした。このような経験が出来て良かったと思います。
- ・実際に参加してみましたが、難しいコトもなく、こちらも勉強になりました。アイデアはないですが、参加できて良かったです。

○今後とも続けて欲しい、また参加したい

- ・次回も、続けて実施してほしい。次回のテーマは高齢者対策。
- ・今後ともこの様な討議会に参加できることに期待します。
- ・今後も3回目に続く市民討議会を開催していただきたいです。
- ・高校生としての意見を言うことができたので、またよろしく願いいたします。
- ・色々な意見を持つ一般の方が集まっていた良かったと思います。ぜひもっと開催してほしいと思いました。
- ・身近にすぐにできそうな事も、たくさん学べ、良かったです。これからより子育てしやすい町になっていきますように。私自身も積極的に協力して頑張ります。また次回あれば参加したいです。

○市民参加のテーマを増やして話し合いの場を設けてほしい

- ・市民参加のテーマを増やしてください。
- ・今回のような選出の方法で、また違う問題になっているテーマで設けてほしい。例えば、地域力を高めるには。
- ・もう少しだけ、高校生に近い議題だともっと良いと思いました。

- ・ 今後もこのような場は重要と思うので他の課でもたくさんやるべき（予算を出して）

○会の進行がスムーズで、コーディネーターがいることで話し合いがスムーズになった

- ・ コーディネーターの方が進行をたすけていただき、盛り上がりました。ありがとうございました。
- ・ 話を進めてくださる方が上手で話しやすかった。また参加してみたいと思いました。良かったです。
- ・ とてもよい進行だったと思います。
- ・ 特になく、とてもスムーズに進んでいたと思います。本当にありがとうございました。

○市職員も話し合いに参加すべき

- ・ 各グループでの討議に、1人ずつ市の職員さんが入っていただけると、より生の声が伝わりやすいのではないのでしょうか。
- ・ 市の職員も話し合い参加すべきです。

○討議だけで終わらず市政に反映させてほしい

- ・ 討議だけで終わらず、市政に反映させてください。
- ・ 反映されることが皆に伝われば、参加も勢が入ると思います。
- ・ 今回の発表（話し合い）で少しでもアイデアが活用されたらと思います。

○行政サービスなどの情報をもっと発信して、手軽に受け取れるようにしてほしい

- ・ 情報をもっと気軽にわかりやすくしてほしい。
- ・ 討議会の中で、情報等の発信が不十分であったことがわかり、そうした生の声を具体的に行動化して欲しいと思う。
- ・ 広報等でアピールを。いろいろな立場の方の意見を！

○高校生の参加がよかった

- ・ 高校生のみなさんが活発的で話がきけてよかったです。
- ・ 高校生は、大和市在住の子優先すべき。話が少し違う。

○まとめることに重点をおきすぎて本題がおろそかになった

- ・ まとめることに重点をおきすぎて本題がおろそかになった気がします。

(アンケート調査票)

やまと市民討議会

平成26年11月29日(土)

参加者アンケート

●本日の市民討議会はいかがでしたか？あてはまるもの1つに○をつけてください。

満足 ほぼ満足 普通 やや不満 不満

○その理由をお書きください。

--

●市民討議会での他のグループの発表をふまえ、追加したいアイデアや話し足りないことがございましたらお書きください。

子どもが生き生きと遊べるまち	
親子で外出したくなるまち	
仕事と子育ての両立	
子育ての不安を解消するには	
その他	

●今回が2回目となるやまと市民討議会でしたが、このような取り組みへのご意見や、より参加しやすくなるための工夫・アイデアなどお気づきの点がございましたらお書きください。

--

ご協力ありがとうございました！

4. 市民討議会の写真





5. 大和市の子育てを取りまく状況

市民討議会の参加者の方には、市の子育てを取りまく状況や取り組み情報を事前資料として提供したうえで、討議会にご参加いただきました。

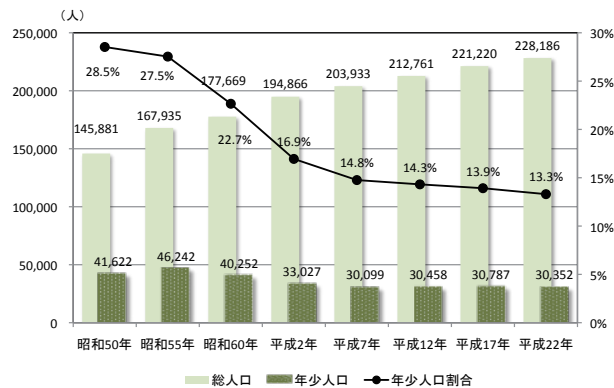
大和市の子育てを取りまく状況

1. 本市における少子化の動向

④ 人口と年少人口割合の推移

国勢調査による本市の総人口は、昭和 50 年の 145,881 人から平成 22 年には 228,186 人と、約 1.56 倍に増加しました。年少人口（0 歳から 14 歳）は、昭和 50 年の 41,622 人から平成 22 年には 30,352 人と、約 7 割に減少しました。総人口に占める年少人口の割合は、昭和 50 年の 28.5% をピークに減少し続け、平成 22 年には 13.3% となっています。

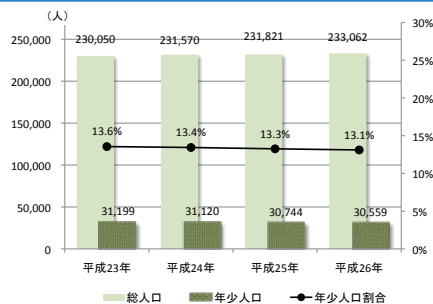
国勢調査による総人口と年少人口割合の推移（大和市）



資料：国勢調査（各年 10 月 1 日現在）

住民基本台帳に基づく平成 23 年以降の総人口は緩やかな増加傾向にあります。年少人口は、平成 23 年には 31,199 人でしたが、平成 26 年 4 月時点では 30,559 人と約 600 人減少しています。年少人口の割合は、平成 26 年 4 月時点で 13.1% となっています。

平成 23 年以降の総人口と年少人口割合の推移（大和市）

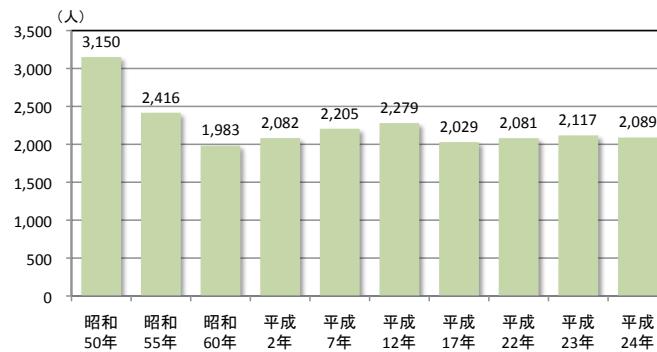


資料：住民基本台帳および外国人登録データより作成（各年 4 月 1 日現在）

④ 出生数の推移

本市の出生数は昭和50年の3,150人から昭和60年の1,983人まで急激に減少しましたが、その後は2,000人から2,200人台と横ばいで推移しています。

出生数の推移（大和市）

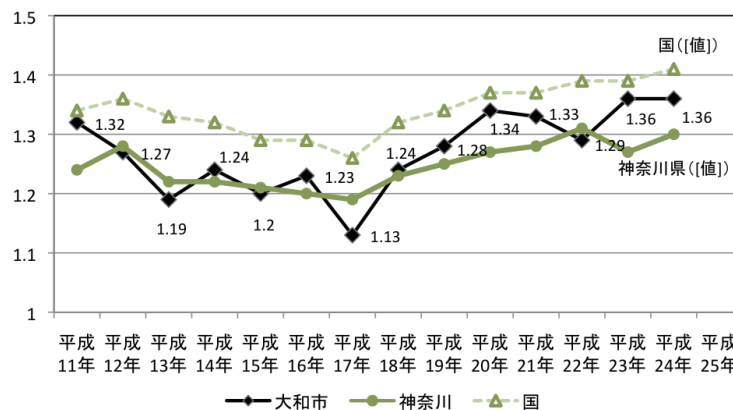


資料：神奈川県衛生統計年報

④ 合計特殊出生率の推移

本市の合計特殊出生率（女性が一生の間に産むと推定される子どもの数）は、平成17年に1.13まで減少しましたが、平成18年から増加に転じ平成24年には1.36となっています。本市の合計特殊出生率は、全国平均よりも低い水準で推移しています。

合計特殊出生率の推移

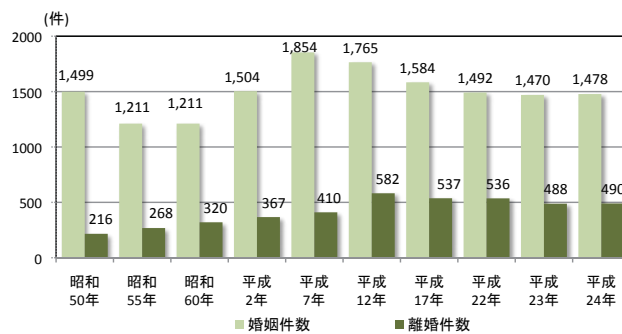


※図表の枠内の数字は大和市の合計特殊出生率
資料：神奈川県衛生統計年報

④ 婚姻の動向

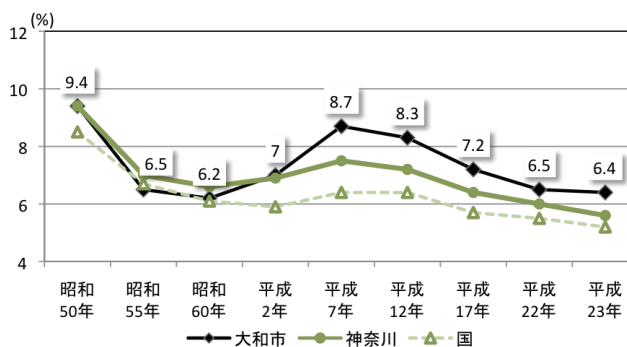
本市の婚姻件数は年 1,500 件弱、離婚件数は 500 件弱の件数で推移しています。婚姻率（人口 1,000 人に対するその年の婚姻件数の割合）は、平成 7 年以降減少傾向にあり、平成 23 年には 6.4 となりました。離婚率（人口 1,000 人に対するその年の離婚件数の割合）は横ばいの傾向にあり、平成 23 年で 2.1 となっています。

婚姻と離婚件数の推移（大和市）



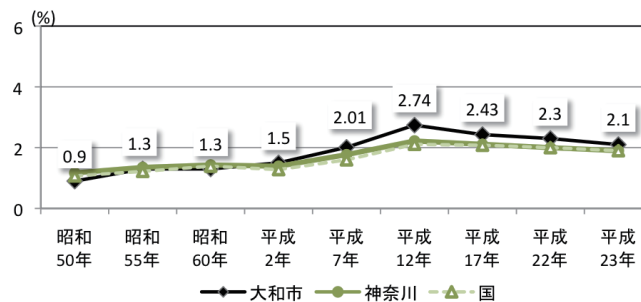
資料：神奈川県衛生統計年報

婚姻率の推移（大和市）



資料：神奈川県衛生統計年報

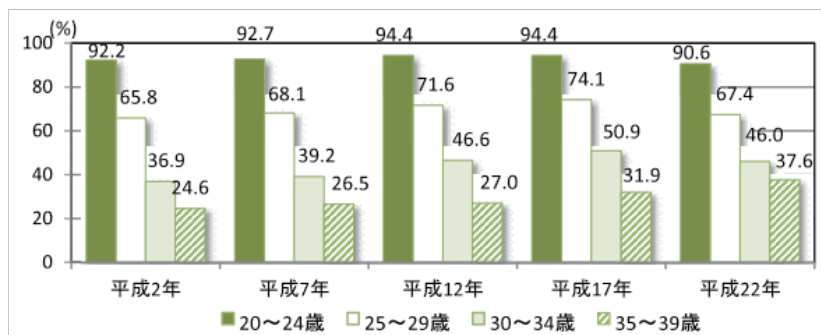
離婚率の推移（大和市）



資料：神奈川県衛生統計年報

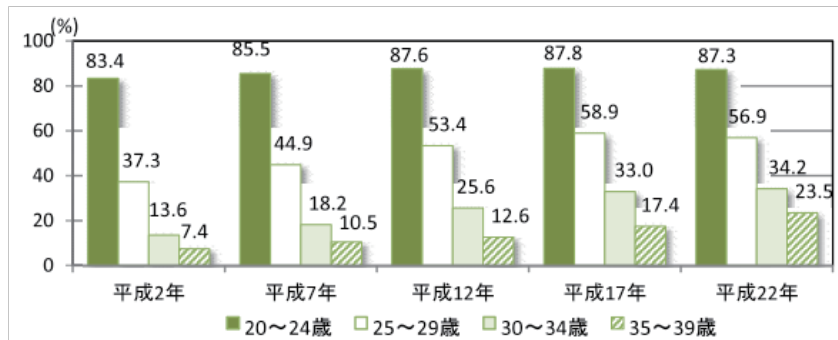
また、男女別に20歳から39歳までの未婚率を5歳ごとの階級に分けてみると、男性では35～39歳、女性では30～34歳、35～39歳の未婚率が上昇しています。未婚化や晩婚化が進んでいることがうかがえます。

男性未婚率の推移（大和市）



資料：国勢調査（各年10月1日時点）

女性未婚率の推移（大和市）



資料：国勢調査（各年10月1日時点）

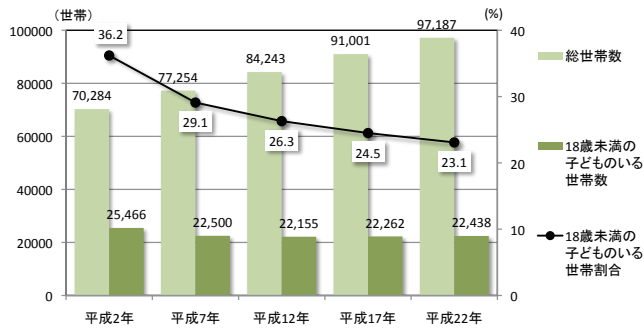
2. 子どもと子育てを取り巻く状況

① 子どもがいる世帯数と世帯構造

本市の世帯数は全体として増加傾向にあります。18歳未満の子どものいる世帯数は平成2年から平成12年にかけて減少していましたが、近年はやや増加傾向にあります。18歳未満の子どものいる世帯の構造をみると、核家族世帯（両親と子どもの世帯、ひとり親と子どもの世帯の合計）が全体の約9割を占めています。一方で、三世帯同居（両親と子どもと祖父母の世帯）の比率は6%まで減少しています。

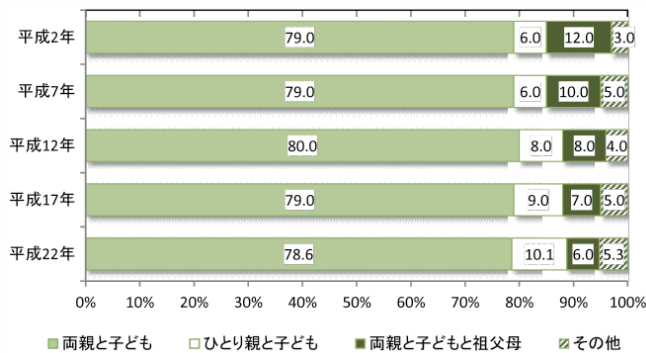
子育て世帯の大多数が核家族世帯となることにより、自身の子どもを持つまで赤ちゃんの世話をしたことの無い親が増えてしています。本市が実施したヒアリングからも、育児や家事の基本を教わる機会のないまま、出産後初めて子育てに直面し育児の悩みを抱える保護者が増えており、家庭における子育て力が低下していることがうかがえます。

総世帯数と18歳未満の子どもがいる世帯が占める割合（大和市）



資料：国勢調査（各年10月1日時点）

18歳未満の子どもがいる世帯の構造（大和市）



資料：国勢調査（各年10月1日時点）

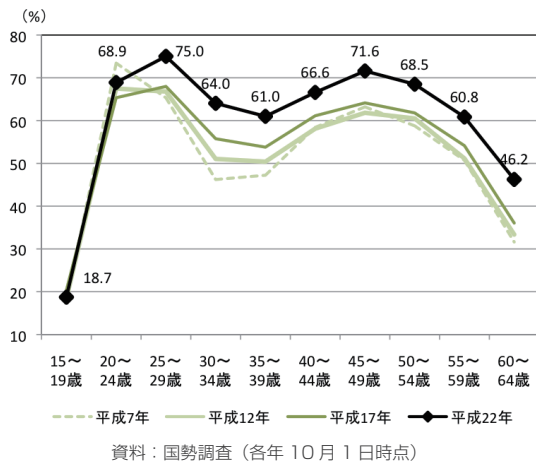
📊 共働き世帯の増加

< 女性の労働力率の推移 (M 字カーブ) >

男女別年齢別に労働力率（生産年齢人口に占める労働人口（就労者と完全失業者（求職者）を合計した数）の割合）をみると、女性は 20 台前半で就職し、その後結婚や出産により一時離職し、その後再び就職することから、「M 字カーブ」を描くことが広く知られています。この M 字カーブについては、女性の労働力率の変化に関する全国的な傾向として、未婚化や晩婚化が進んでいること、結婚時の雇用継続が増加していること、育児休業取得率が上昇していることなどから、その谷が徐々に浅くなっています。

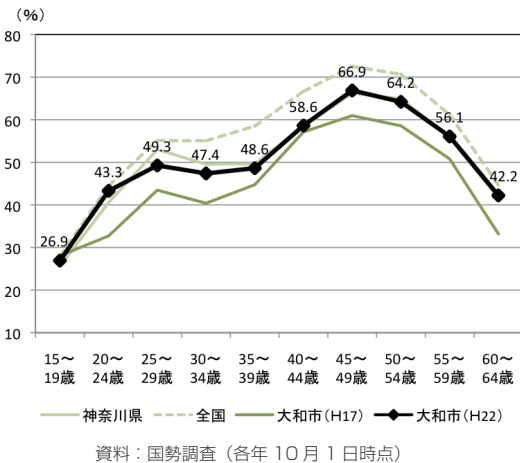
本市の女性の労働力率についても未婚化や晩婚化等の傾向は同様であることから、30 歳台の女性全体の労働力率は大幅に上昇しており、平成 22 年では 6 割に達しています。

女性の労働力率の推移



本市の有配偶女性（配偶者のある女性）の労働力率は、全国平均と比較して低い傾向にありますが、平成 22 年の労働力率は平成 17 年と比較して大きく上昇しています。女性の活躍を支える環境づくりを国全体として推進していく方針であることから、女性の労働力率の上昇は今後も続くものと予測されます。

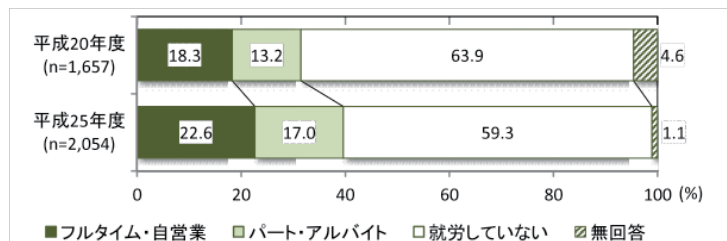
有配偶女性の労働力率の推移



< 親の就労状況 >

平成 25 年度のニーズ調査によれば、本市の 0 歳から 5 歳の子どもをもつ親の就労状況は、父親の 9 割以上がフルタイムで就労しており、母親の約 23%がフルタイムで、約 17%がパートタイムで就労しています。5 年前の調査と比較すると、就労する母親の比率は約 8 ポイント増加しています。また、現在未就労の母親の 7 割が、将来の就労を希望しており、今後も共働き世帯が増加していくことが予測されます。

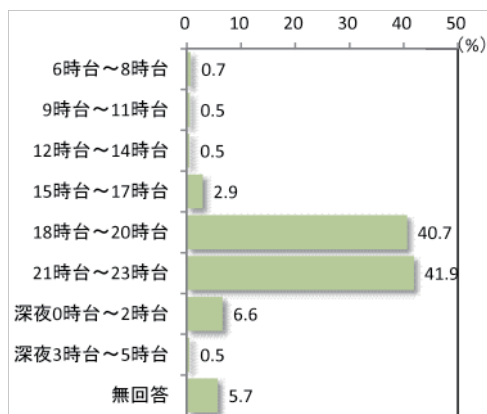
0歳から5歳の子どもを持つ母親の就労状況の変化



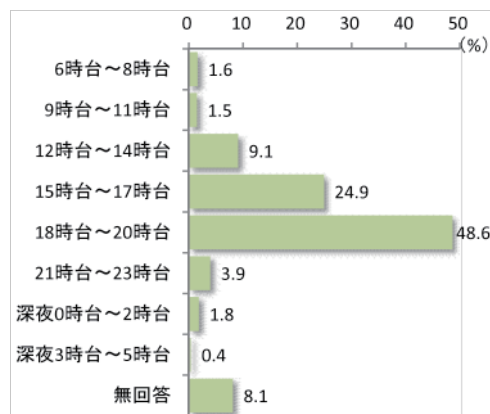
資料：大和市次世代育成支援に関するニーズ調査（平成 20 年度）、
大和市子ども・子育て支援に関する調査（平成 25 年度）

また、就労している父親と母親の帰宅時間をみると、父親は 21 時以降に帰宅する比率が約 5 割を占めており、平日に父親が育児に関わるのが難しい状況がうかがえます。また、就労している母親の帰宅時間は 18 時台から 20 時台が最も多く 5 割弱となっています。本市が実施したヒアリングによれば、長時間の労働により、平日に親子のコミュニケーションの時間を十分に取ることが難しいという家庭が増えています。父母ともに子育てに関わり、子どものより良い育ちを支える親子関係ができるよう、仕事と子育ての両立を支援していくことが求められています。

就労している父親の帰宅時間



就労している母親の帰宅時間



資料：大和市子ども・子育て支援に関する調査（平成 25 年度）

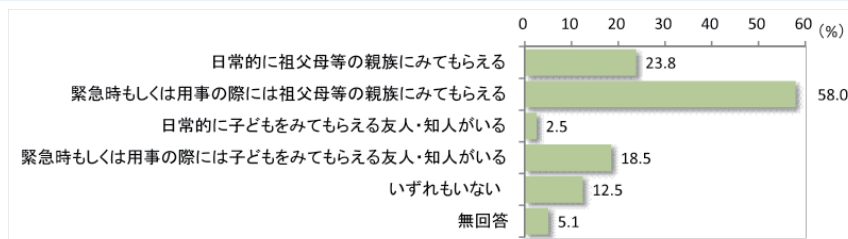
④ 子育ての不安感、負担感、孤立感

核家族世帯が子育て世帯の主流となり、三世帯同居世帯が減少し、地域のつながりが希薄化しています。かつては、日常的に祖父母や近所の人から育児の助言や協力を受けることが難しくありませんでしたが、今日では日常的な子育ての支援が得られにくくなっています。

本市のニーズ調査によると、子育てについて日常的に頼ることができる祖父母や知人等がいる世帯の割合は4人に1人程度でした。さらに、12.5%の方は、子どもをみてもらえる親族・知人がいないと回答しています。また、4%の方は子育てをする上で気軽に相談できる人がいないと回答しています。このように、日々の子育てに対する助言や協力を得ることが難しく、孤立した状況で子育てをしている家庭が存在していることがうかがえます。

孤立した状況で育児の不安や負担を抱え込むことにより、産後うつ病を発症しやすくなることが知られています。また、育児への相談や協力が得られない状況で大きなストレスを抱え続けることで児童虐待につながるがあると指摘されています。すべての子どもの健やかな育ちを保障する上で、妊娠、出産、育児期にかけて切れ目のない支援を行い、育児の孤立を減らしていく取り組みが極めて重要です。

日頃、子どもをみてもらえる親族・知人の有無



資料：大和市子ども・子育て支援に関する調査（平成25年度）



大和市イベントキャラクター
ヤマトン

大和市 年齢ステージ別子育て

＜本市が行っている子育て支援事業を年齢・分野別にまとめました＞


	妊娠・出産期	乳児期 (0～1歳)	保育園・幼稚園期 (2～5歳)
健診・教室等	<p>市 妊婦健診 妊婦中の健康管理を促すための健診を無料で受診できます</p> <p>市 プレママ・パパ教室 第1子目のママ・パパを対象とした、妊娠・出産・育児に関する基本講座</p>	<p>補 乳児家庭全戸訪問 育児の支援や情報提供のために家庭を訪問します</p> <p>市 乳幼児健診 月齢に応じた発育を確認します。4か月・8か月・1歳6か月・3歳6か月</p> <p>市 離乳食教室 ・幼児食教室 ・おべんとう教室 月齢に応じた食事に関する講座</p>	<p>市 2歳児歯科相談 歯科健診や歯磨き指導等</p>
子育て支援・発達支援・相談支援等		<p>補 ファミリーサポートセンター 地域における会員相互の子育て</p> <p>市 地域育児センター事業 保育所 17 園による地域における子育て支援プログラム ・育児相談事業 ・地域育児講座 ・開放保育あそぼう会等</p> <p>市 低体重児育児支援 低体重児育児支援と保護者を対象とした健康管理・育児支援</p> <p>市 おやこ教室 心理発達面に不安のある子の発達を促す支援</p> <p>市 児童発達支援 発達に不安のある子を対象とした、日常生活動作指導や集団生活への適応訓練の福祉サービス</p> <p>市 はぐくねっと事業 特定非営利活動法人による子育て中の親子を対象とした相談支援事業</p> <p>市 育児相談 乳幼児の健康相談</p> <p>市 子どもの発達相談 専門職員による発達に関する悩み相談</p> <p>市 家庭児童相談 家庭相談員による子育てに関する悩み相談</p>	

他市と比較し、手厚い支援体制となっています。



市…大和市の自由に使える財源だけで行う事業 **補**…事業を推進するために、国や県の財源と一緒にを行う事業

サービス情報

小学生期 (6 ~ 12 歳)	中学生期 (13 ~ 15 歳)
<p>市 自閉症療育講座 自閉症など発達障がいのある子への対応などを学ぶ講座</p>	
<p>支援活動をサポート</p>	
	
<p>■ 放課後等デイサービス 発達に不安のある子を対象とした、生活能力向上のための必要な訓練等の福祉サービス</p>	
<p>市 青少年相談 主に学齢時期の子育て青少年に関する相談</p>	

■…実施が義務付けられている事業

	妊娠・出産期	乳児期 (0～1歳)	保育園・幼稚園期 (2～5歳)
子育て関連施設		<p>補 子育て支援センター 保護者の育児不安を解消するため、育児相談、子育てサロンの開催をしています</p> <p>補 つどいの広場「こどもーる」 子育て親子が気軽に集え、相談ができ、子育て情報がある集いの広場</p>   <p>子育て支援センター こどもーる鶴間</p>	
通園通学施設		<p>■ 認可保育所 公立 4 園・民間 19 園、入所定員計 2,045 人</p> <p>・私設保育施設 民間 26 園</p>	<p>・幼稚園 民間 17 園</p>
手当助成	<p>★</p> <p>市 不育症治療費の一部助成 (上限 30 万円)</p> <p>市 タイミング法・人口授精などの一般不妊治療費の一部助成 (上限 5 万円)</p> <p>市 体外受精・顕微授精等の特定不妊治療費の一部助成 (上限 5 万円)</p> <p>市 第 3 子以降の出産費の助成 (上限 5 万円)</p>	<p>■ 児童手当 児童の健やかな成長に資するための手当支給。月額 5～15 千円/月</p> <p>■ 児童扶養手当 ■ ひとり親家庭等医療費助成 父母の離別等で児童がいる世帯について、手当の支給、医療費の助成</p> <p>補・市 小児医療費の助成 中学校卒業までの児童にかかる保険診療の自己負担分を助成</p> <p>★</p> <p>中学校卒業までを対象としているのは、神奈川県下の市としては、厚木市、海老名市と大和市！ (他市は小学校 1～6 年生までが多い)</p>	

市…大和市の自由に使える財源だけで行う事業 **補**…事業を推進するために、国や県の財源と一緒にを行う事業

小学生期 (6 ~ 12 歳)	中学生期 (13 ~ 15 歳)
<div data-bbox="323 607 1305 712"> <p>補 児童館 児童に健全な遊びを与えて、その健康を増進し、又は情操を豊かにするため、市内 22 カ所に設置し、指導員のもとに様々な活動が行われています</p> </div> <div data-bbox="323 734 794 869"> <p>補 放課後子ども教室 公立小学校全 19 校において放課後の児童の安全・安心な居場所を設け地域社会の中で児童の健全育成を図ります</p> </div> <div data-bbox="323 891 1305 981"> <p>市 青少年センター 青少年の健全な育成を図るため、青少年に交流と活動の場を提供します</p> </div>	
<div data-bbox="323 1032 794 1137"> <p>■ 小学校 公立 19 校、私立 1 校</p> </div> <div data-bbox="323 1160 794 1328"> <p>補 放課後児童クラブ 公設 17 か所、民営 3 か所 保護者が就労等で昼間不在になる児童に対し、適切な遊びや生活の場を提供します</p> </div>	<div data-bbox="847 1032 1321 1137"> <p>■ 中学校 公立 9 校、私立 1 校</p> </div> <div data-bbox="1034 1167 1329 1384">  </div>
<p>学校</p>	
<p>※対象年齢は自治体によって異なります。</p>	
<p>■ …実施が義務付けられている事業</p>	

平成 26 年度 市民討議会

報告書

平成 27 年 1 月

発行 大和市 政策部 総合政策課

〒 242-8601 神奈川県大和市下鶴間 1-1-1

電話 046-260-5304

